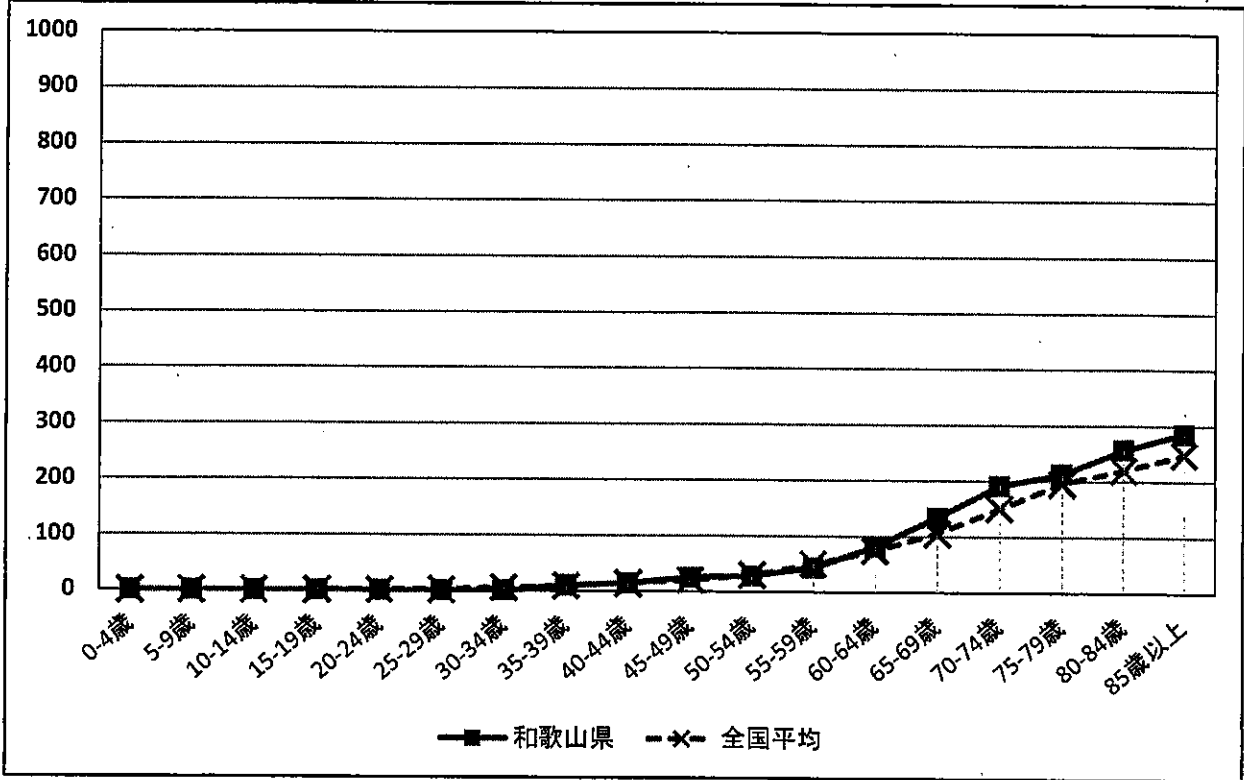


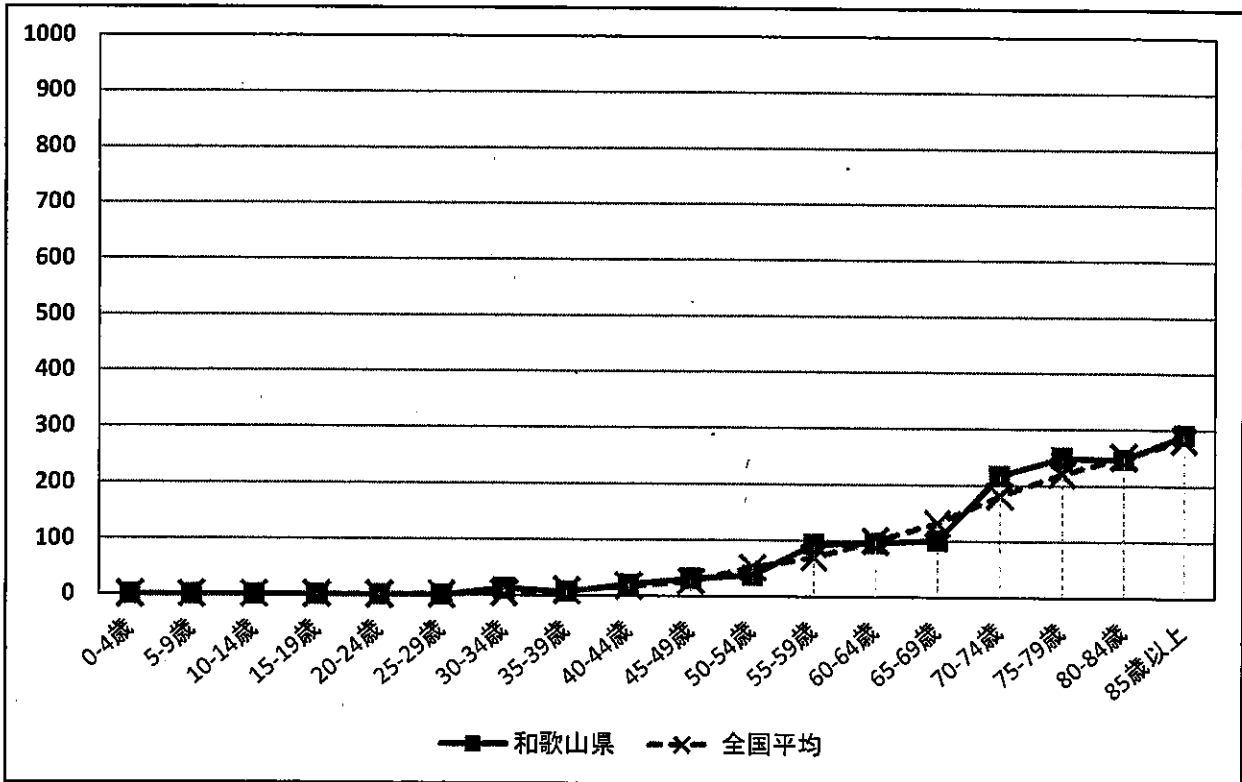
年齢階級別罹患率（人口10万対）：部位別、性別（主要部位）

（和歌山県と全国平均との比較）女性 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表3-A、3-Bから作成
 本県の罹患率は、ほぼ全国平均のがんが多いが、乳がんは、全国平均より低い年齢層が多い。

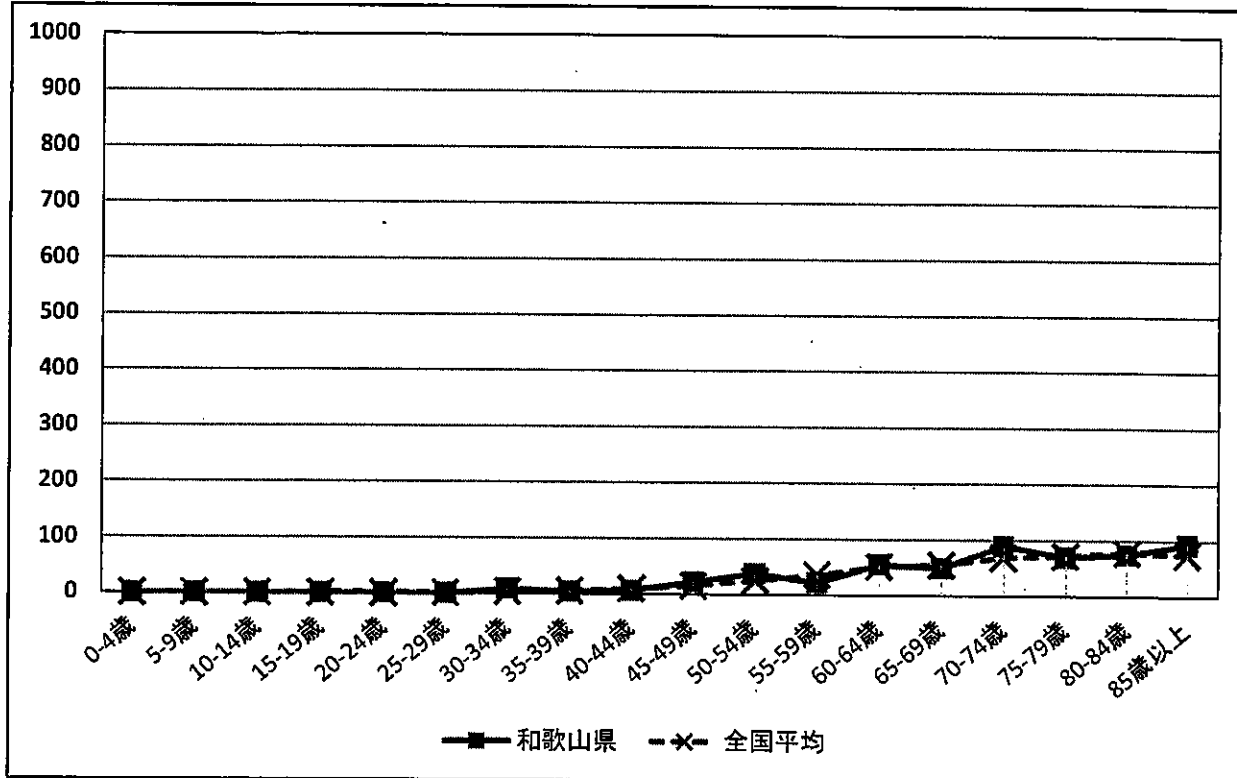
① 胃



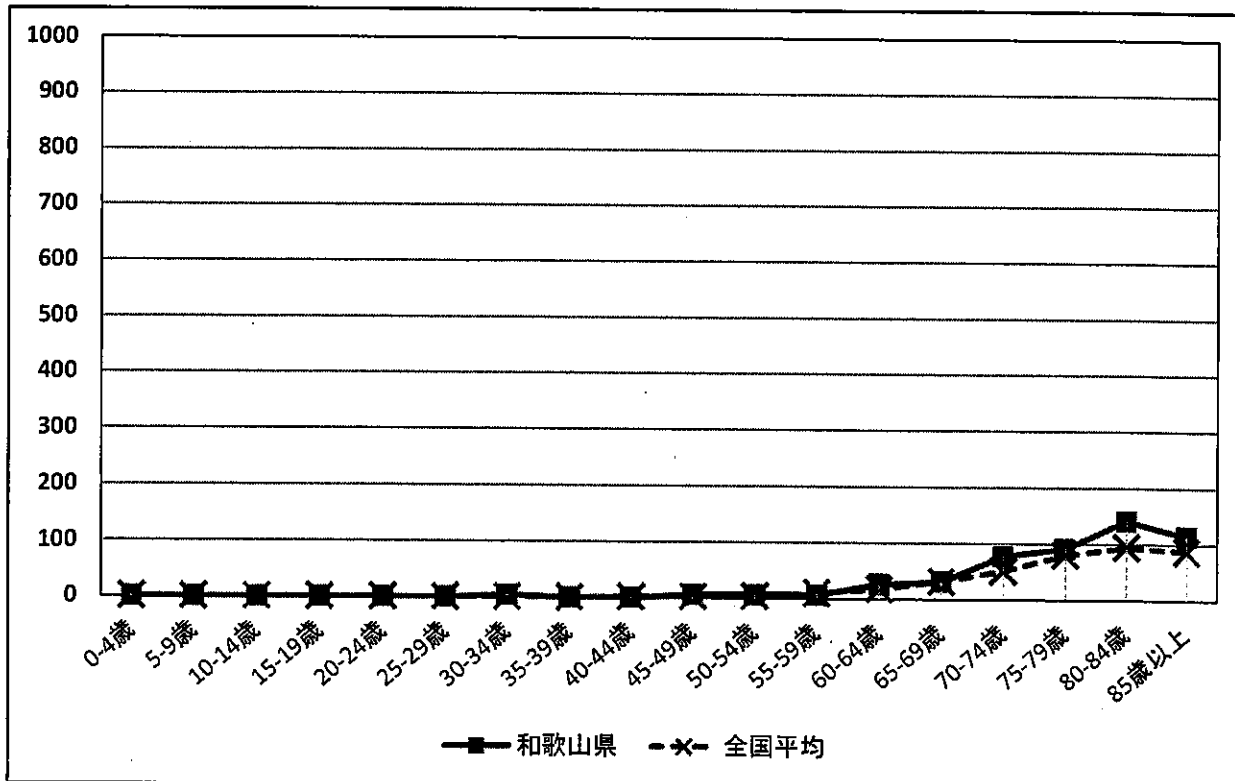
② 結腸



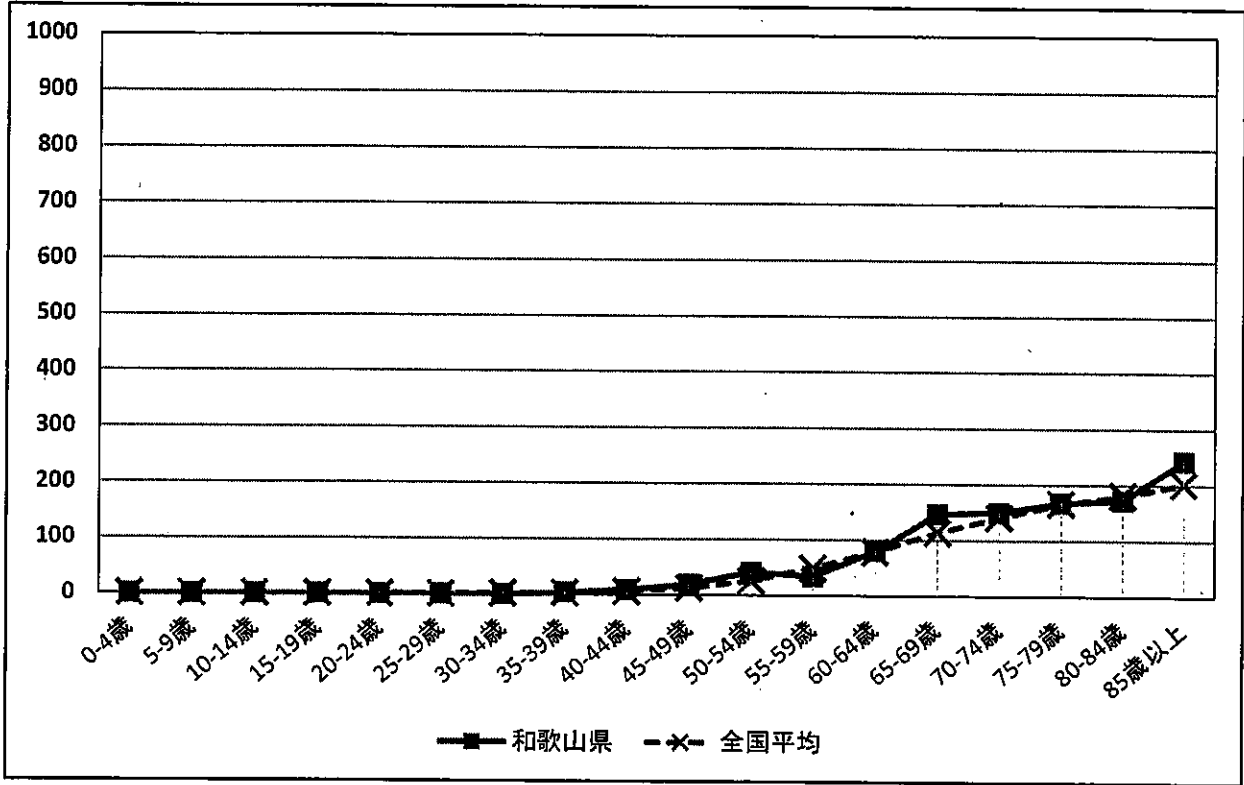
③ 直腸



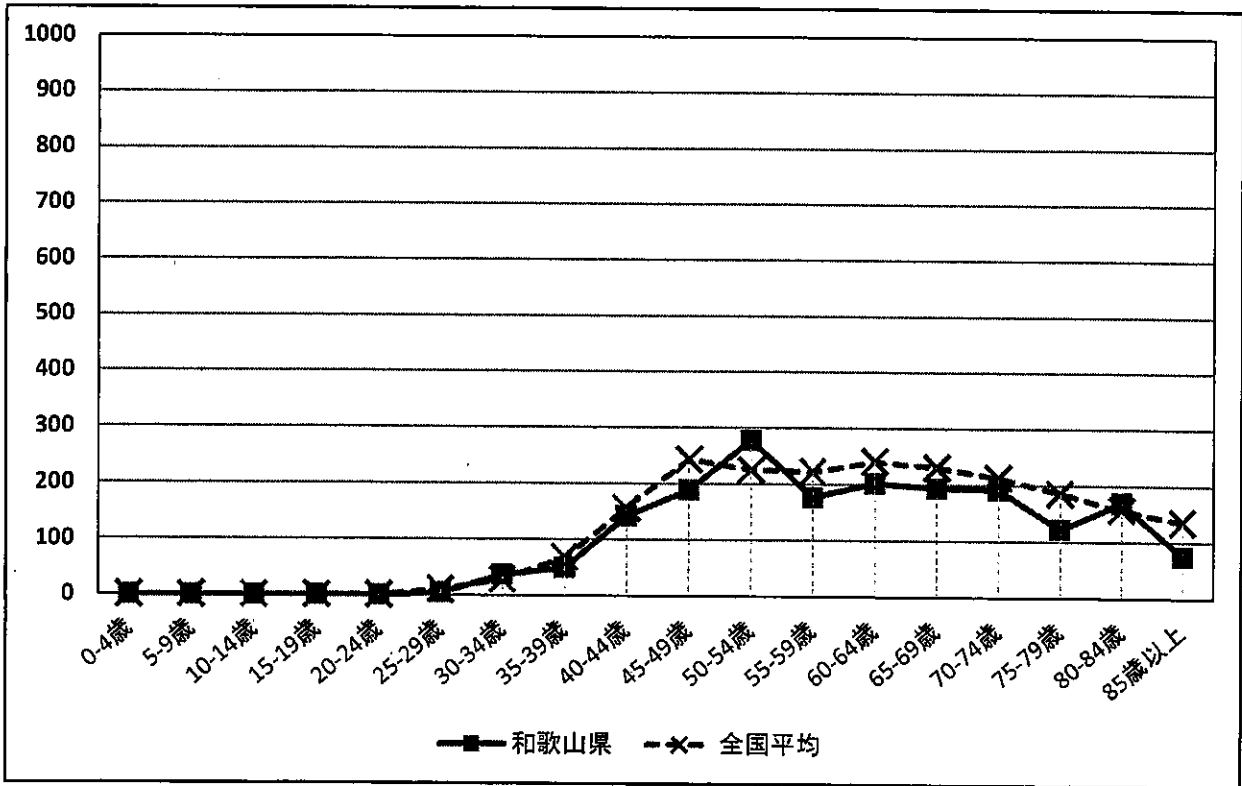
④ 肝および肝内胆管



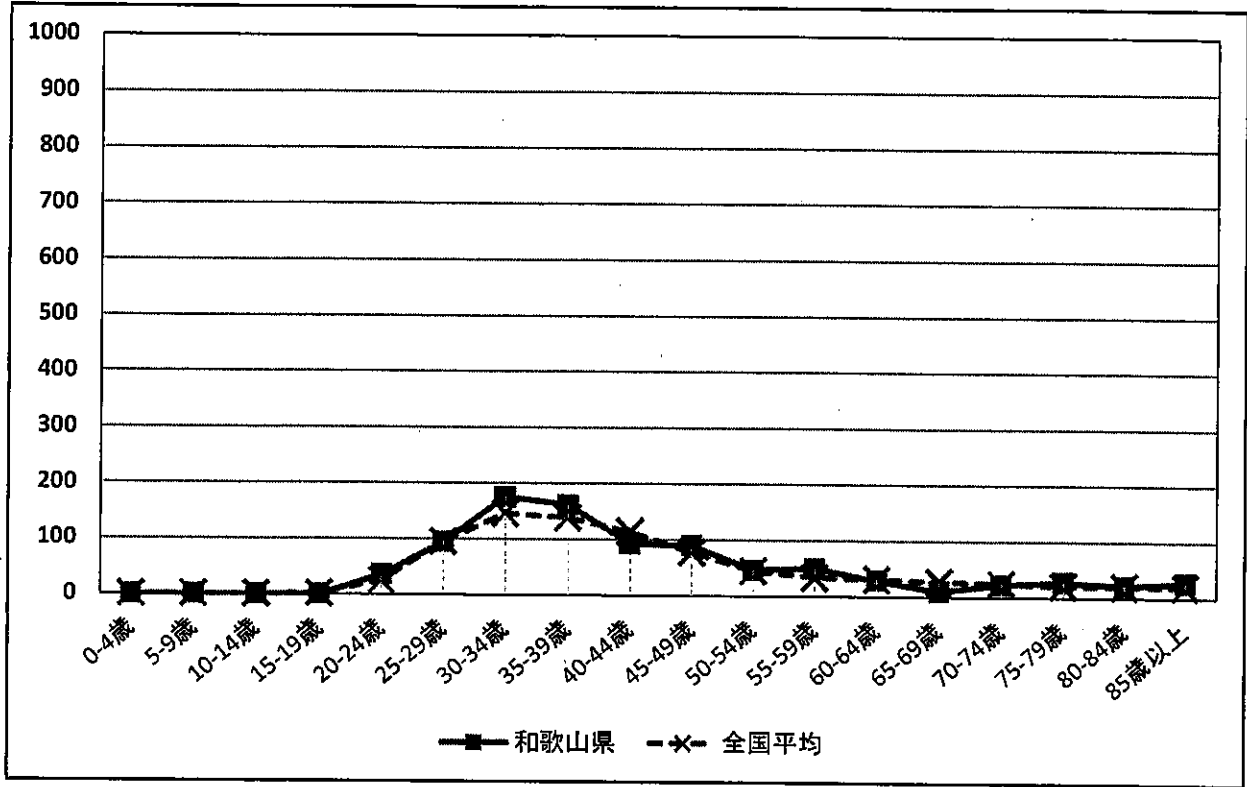
⑤ 肺



⑥ 乳房



⑦ 子宮頸部

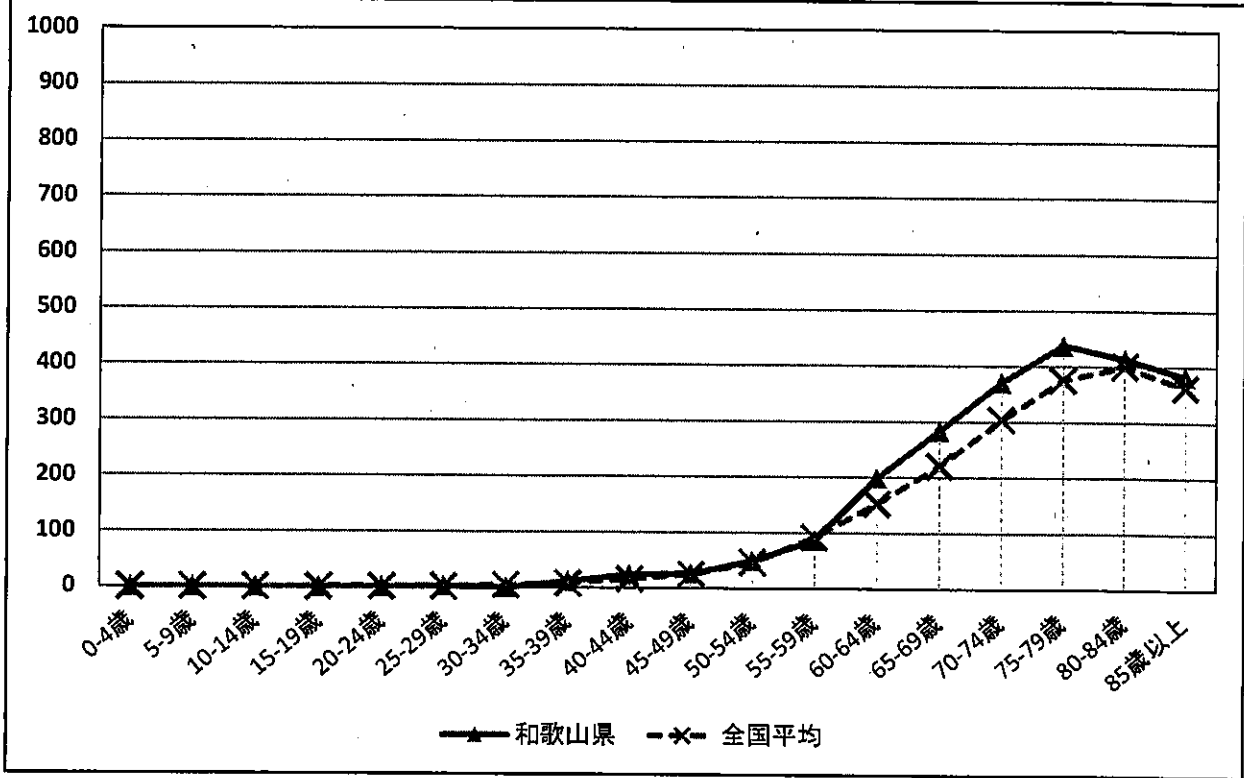


年齢階級別罹患率（人口10万対）：部位別、性別（主要部位）

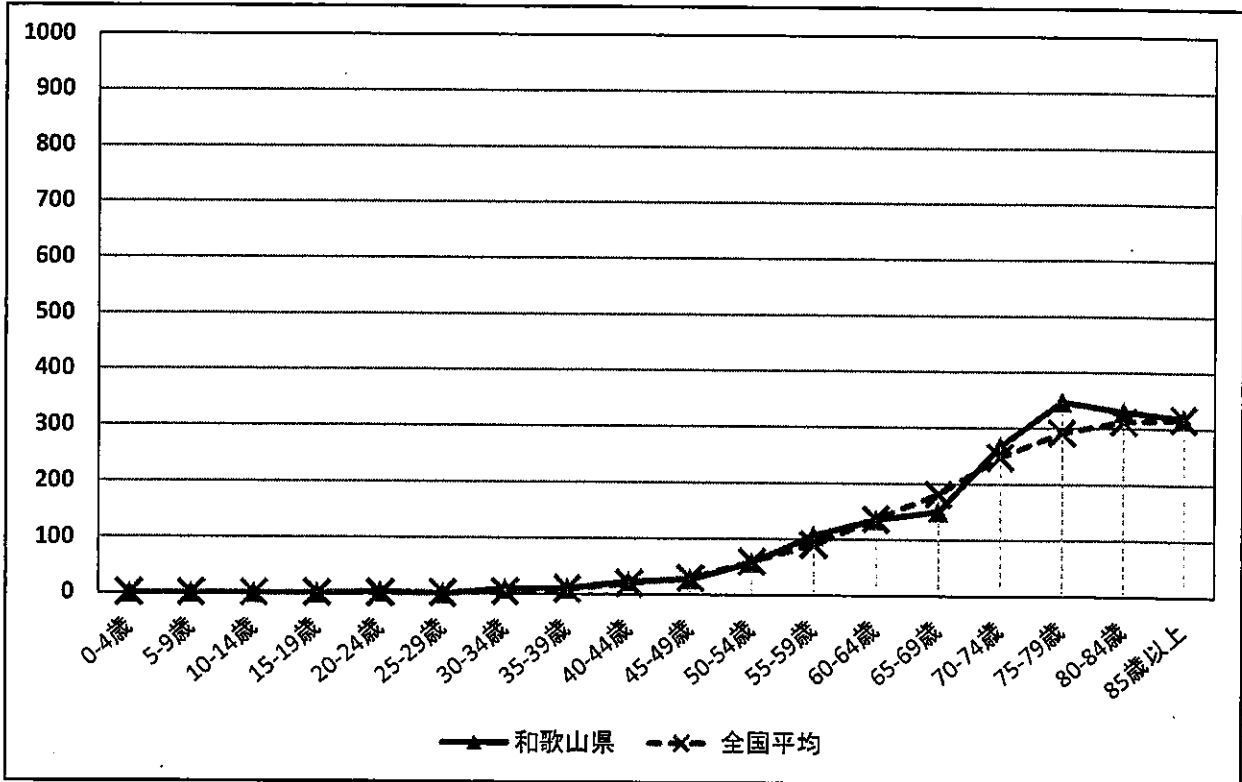
（和歌山県と全国平均との比較）男女計 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表3-A、3-Bから作成

50歳以上の年齢層で、罹患率が全国平均より高いがんが多く、特に、胃がんや肝及び肝内胆管がん、肺がんは60歳から84歳の年齢層が高くなっている。

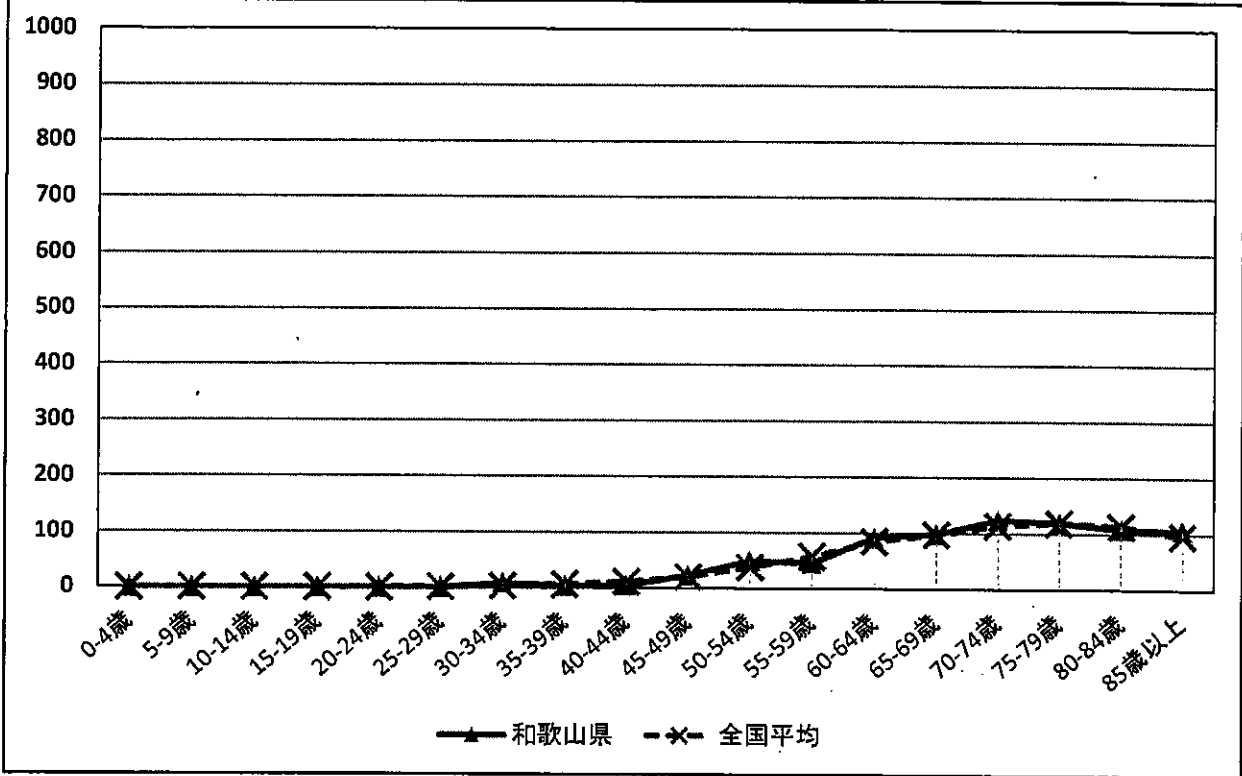
① 胃



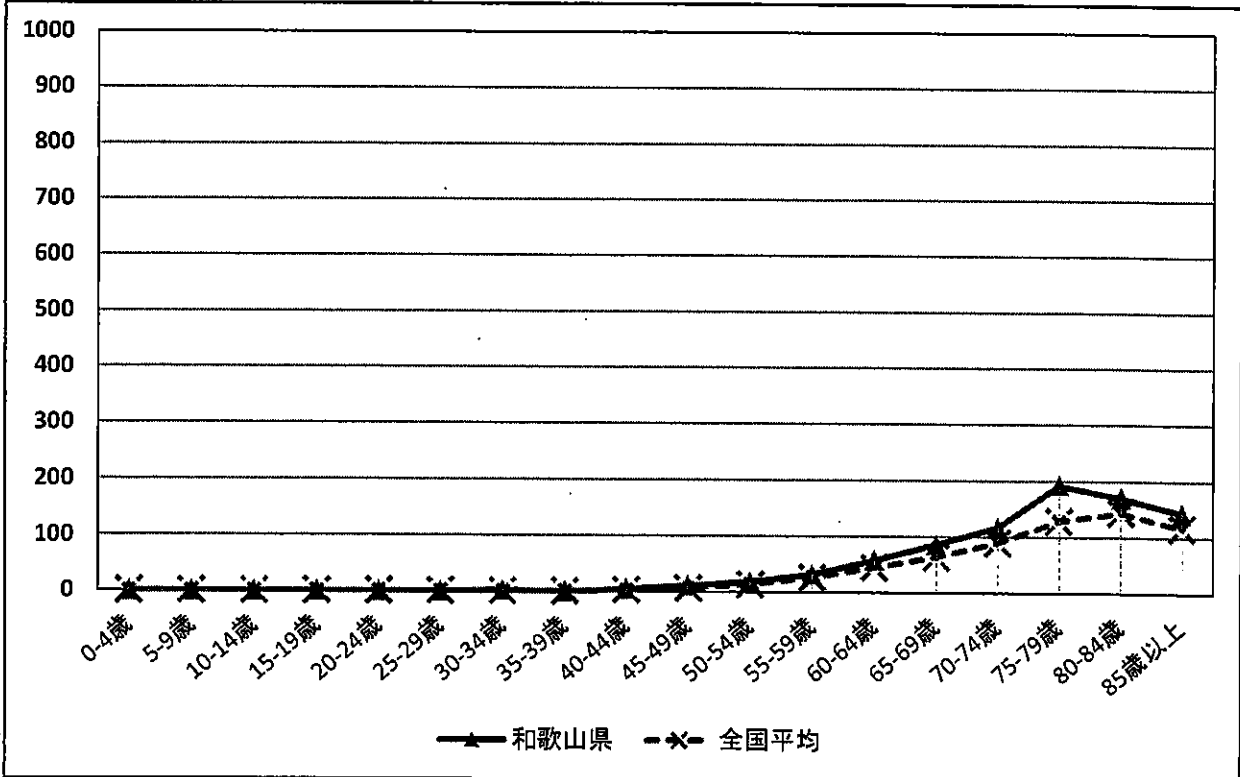
② 結腸



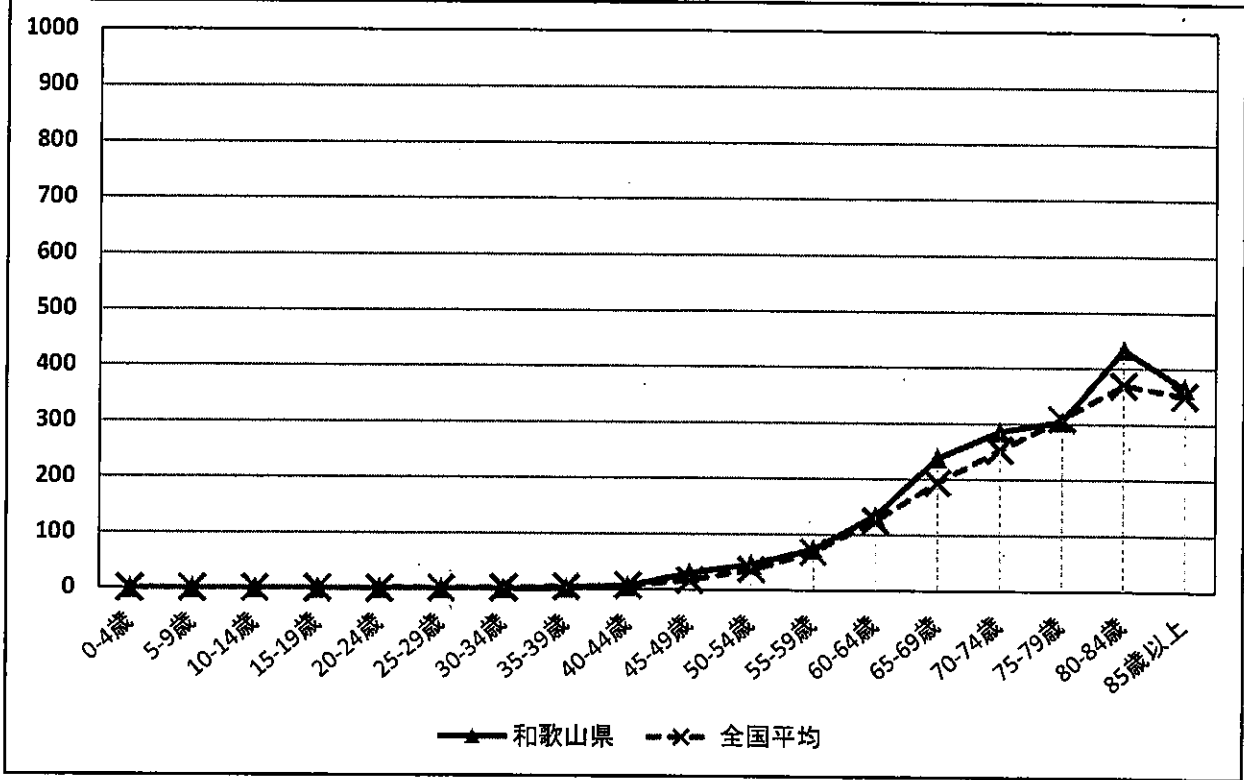
③ 直腸



④ 肝および肝内胆管

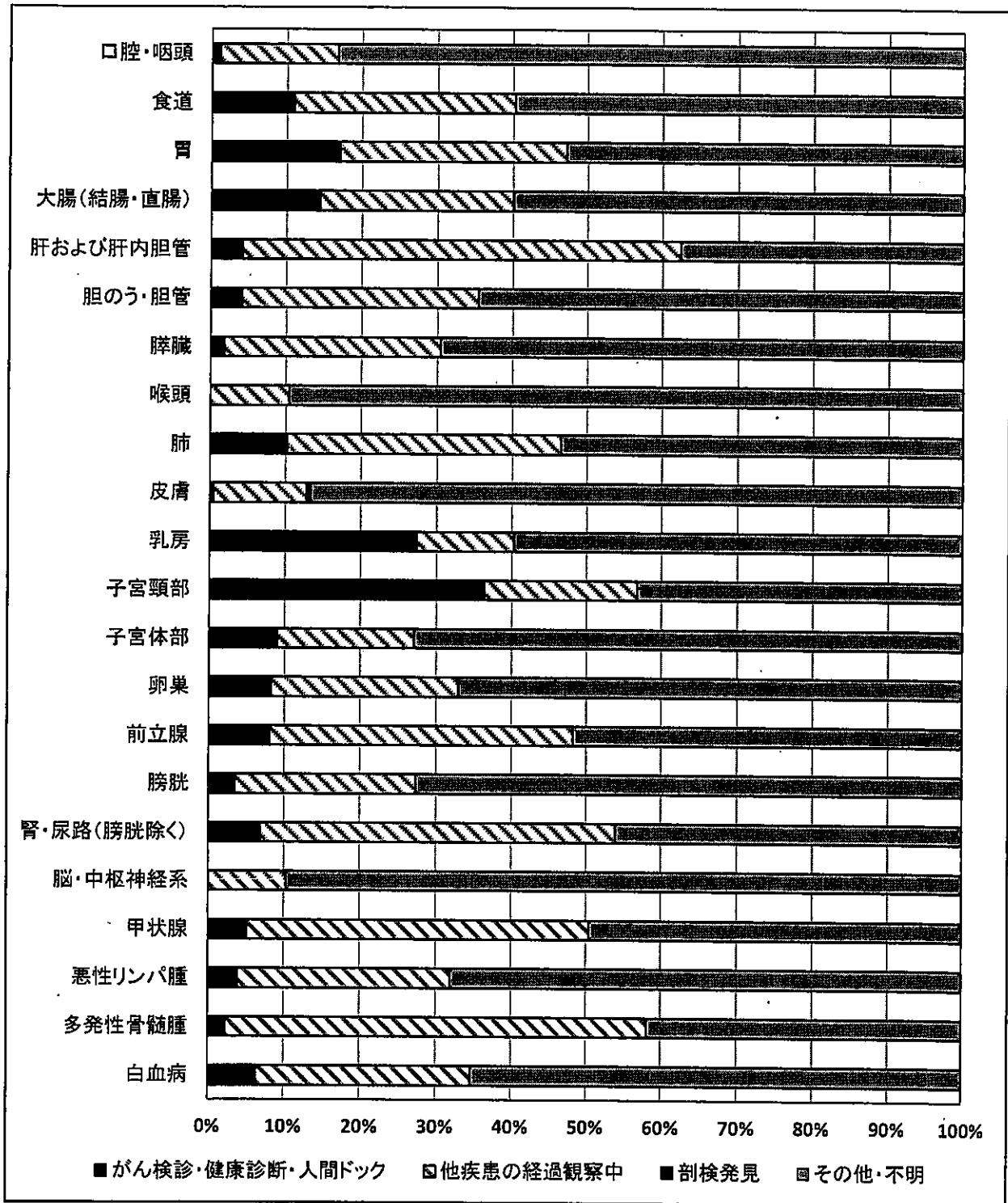


⑤ 肺



発見経緯 (%) 部位別

【和歌山県の状況】



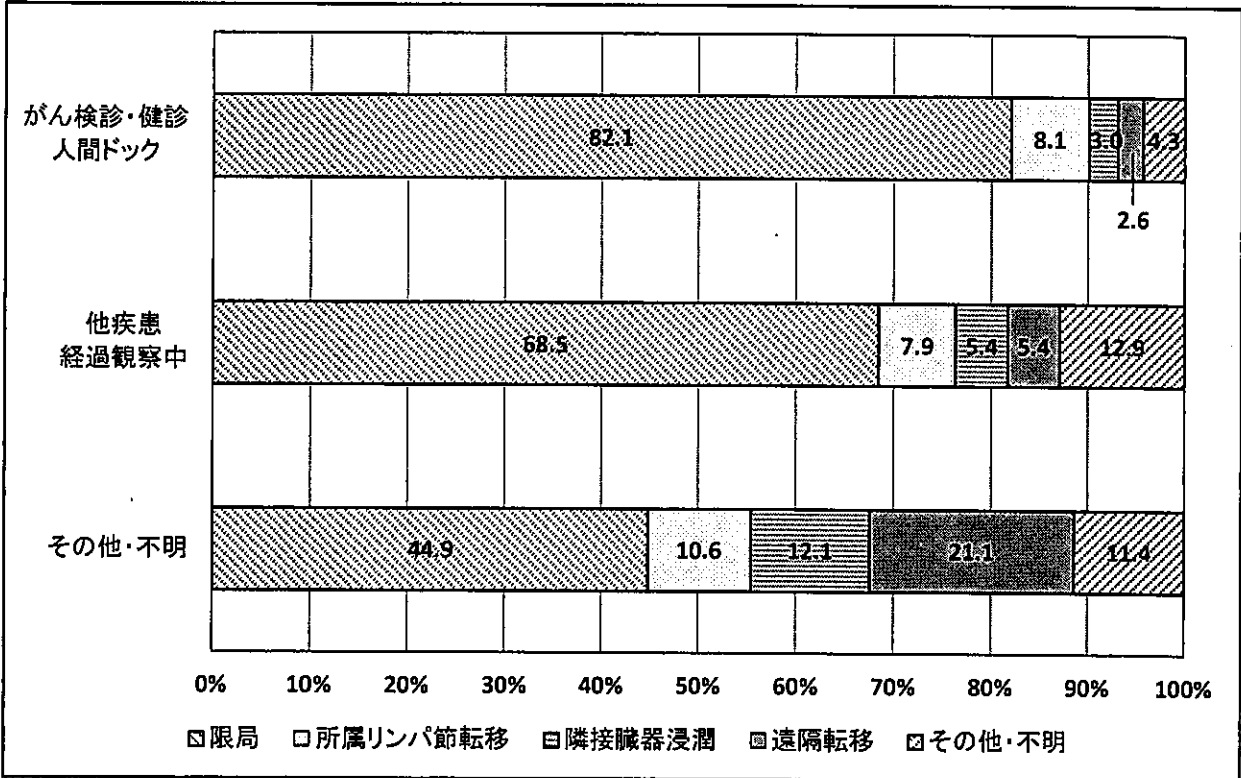
乳房がん及び子宮頸がんでは、がん検診による発見経緯が30%～40%の割合で占めている。また肝および肝内胆管がんでは、他疾患の経過観察中の割合が約60%ある。これは肝炎、肝硬変の経過観察中に発見されるケースが多いためであると推察する。

※ 詳細な数字については、標準集計表の表4-A、4-Bを参照のこと

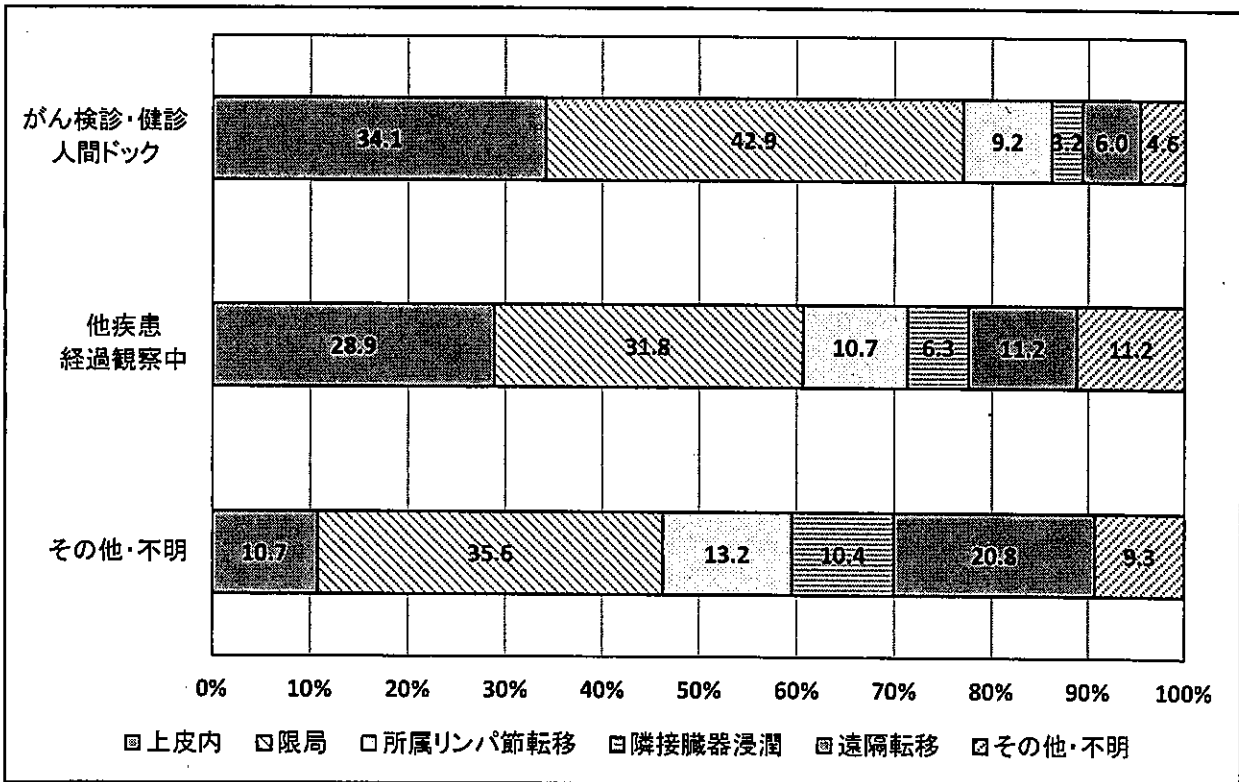
部位別・発見経緯別・病巣の拡がり (%) の関係

和歌山県でがん検診が実施されている部位（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）別に、「がん」が発見されるに至った経緯と「がん」の進行度（病巣の拡がり）の割合との関係性を調査した。なお、ここで示すデータは、2009年～2013年診断分（5年分）のデータを利用した。

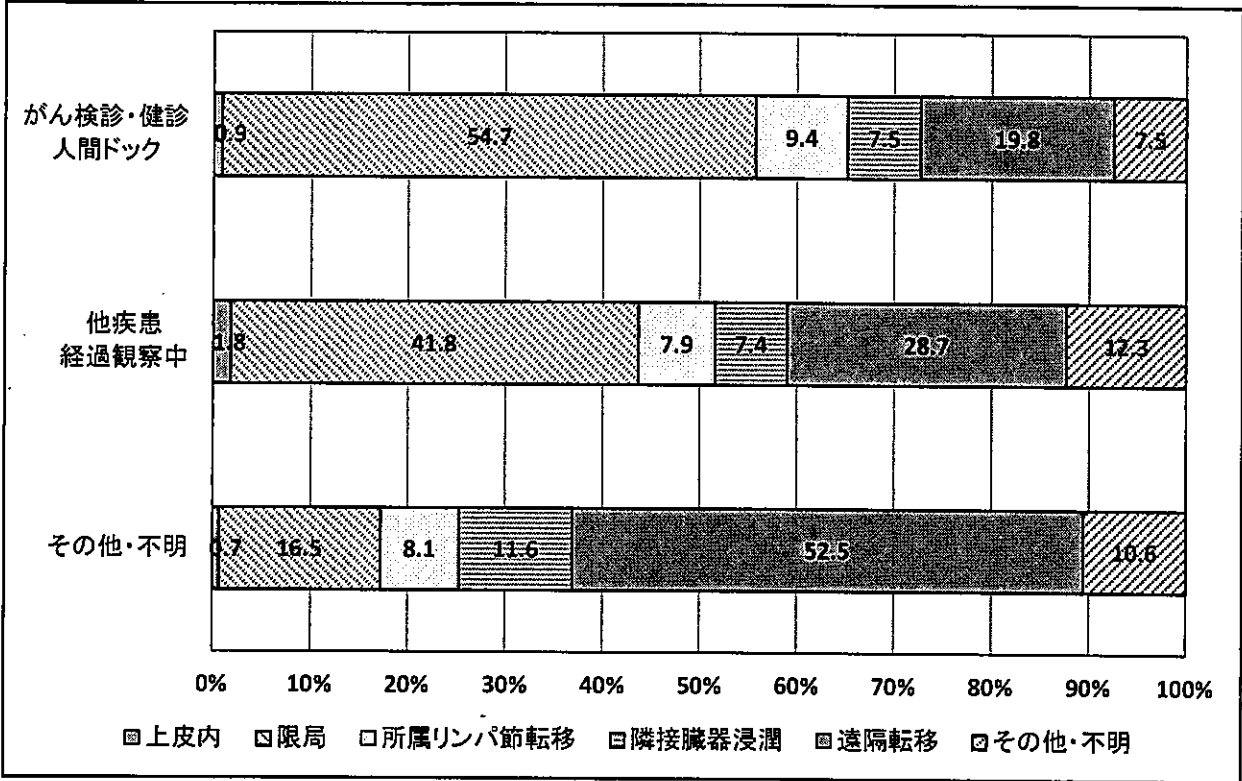
① 胃がん



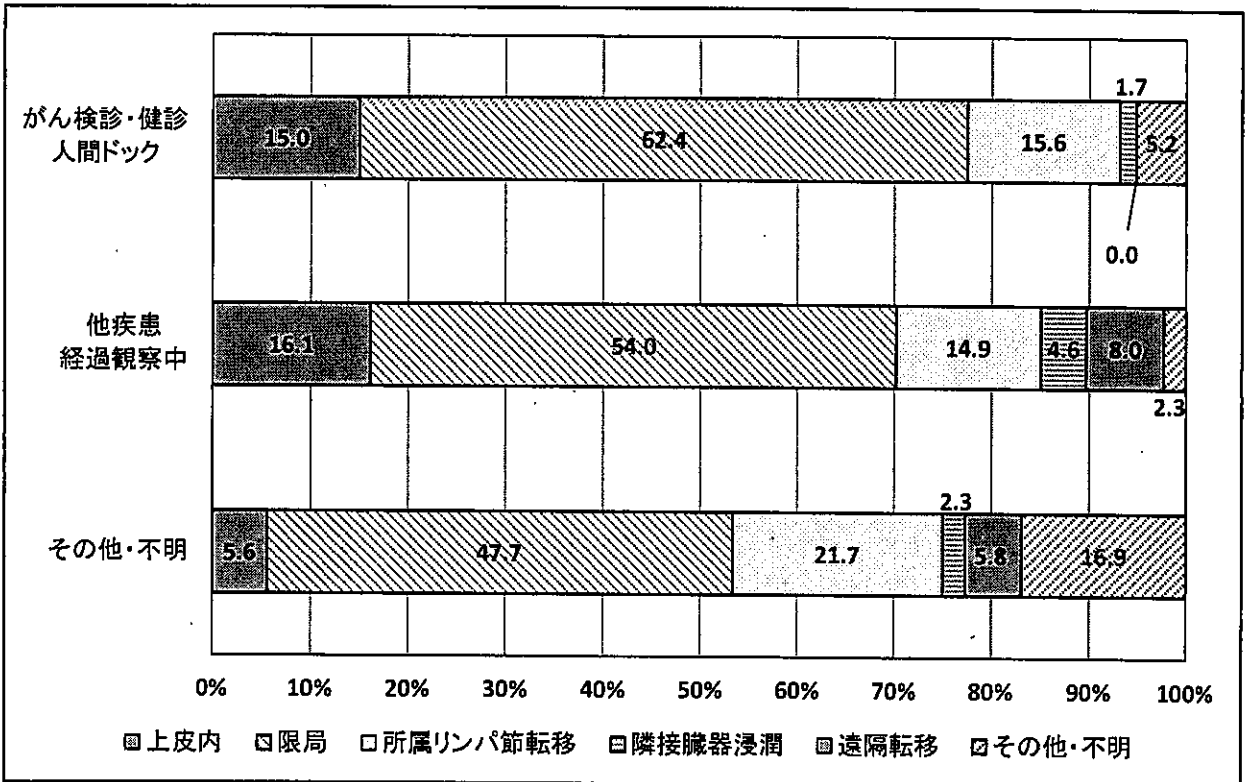
② 大腸がん



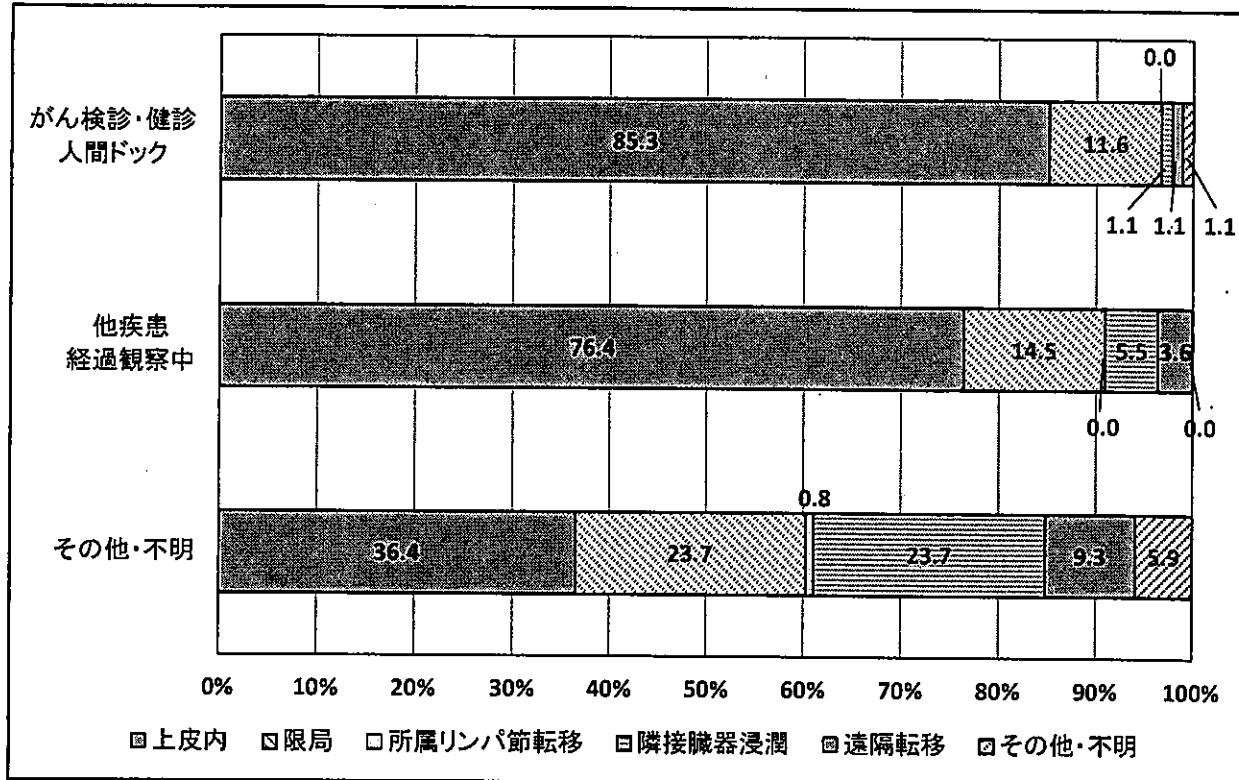
③ 肺がん



④ 乳がん



⑤ 子宮頸がん



※ 一般的に「早期がん」と言われる病巣の拡がりは、上皮内と限局のことを示す。

※ 胃がんの病巣の拡がりに、「上皮内」は存在しない。

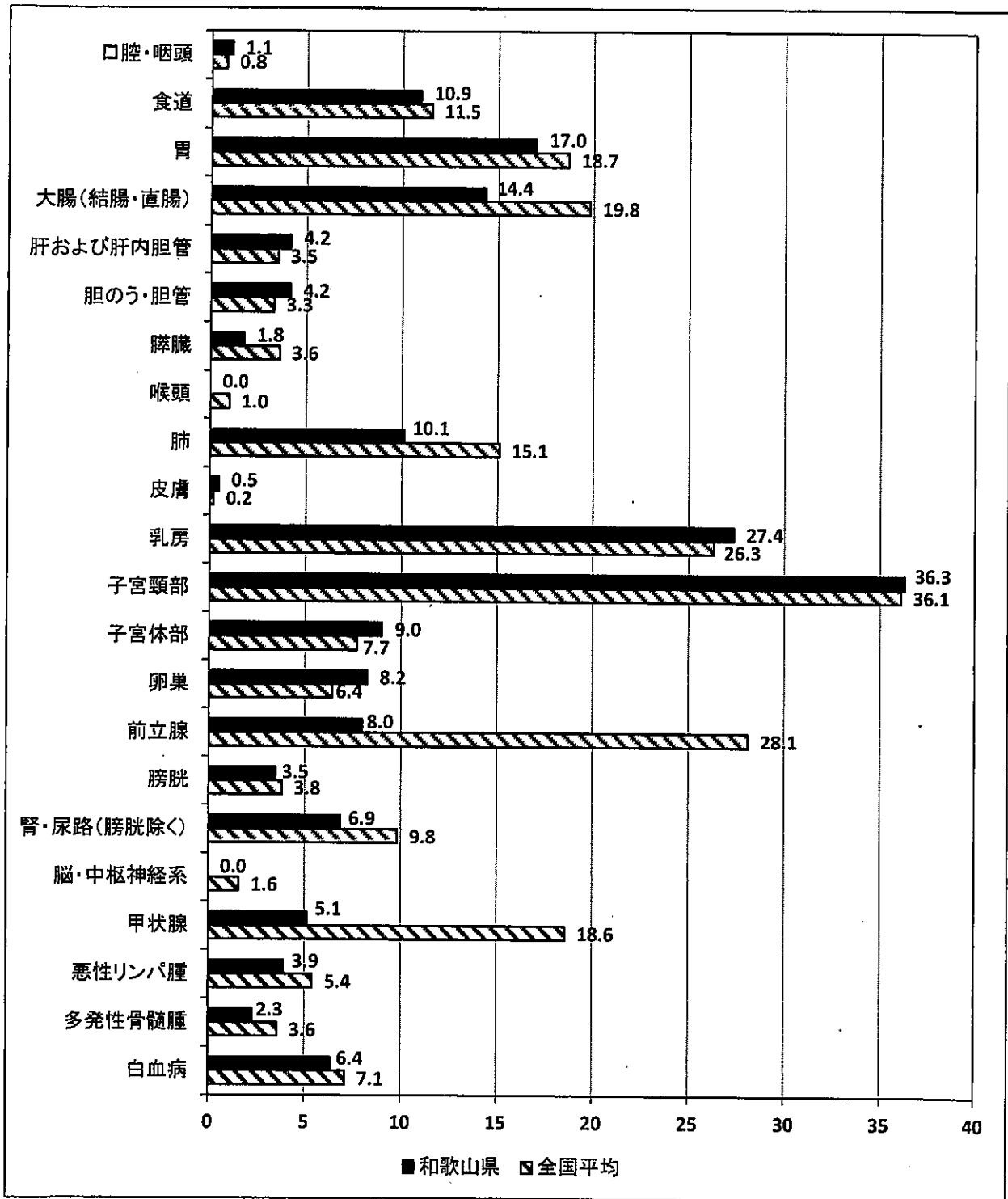
※ 発見経緯の「他疾患の経過観察中」とは、慢性疾患等で通院中に「がん」と診断されるに至った経緯のことを示す。

胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部のいずれにおいても、「がん検診・健康診断（健診）・人間ドック」で発見された場合は、「上皮内・限局」の状態と診断される割合が高く、「その他・不明」で発見された場合になると、「所属リンパ節転移、隣接臓器浸潤、遠隔転移」のがんが進行した状態で診断される割合が高くなっている。なお、「その他・不明」には、何らかの症状を自覚してから医療機関を受診するケースを含んでいる。

以上のことより、がん検診や健康診断、人間ドックは、がんの早期発見に有効であることがわかる。

部位別・発見経緯別罹患率(%) 男女計

【発見経緯が「がん検診・健康診断・人間ドック」の割合(和歌山県と全国平均との比較)】

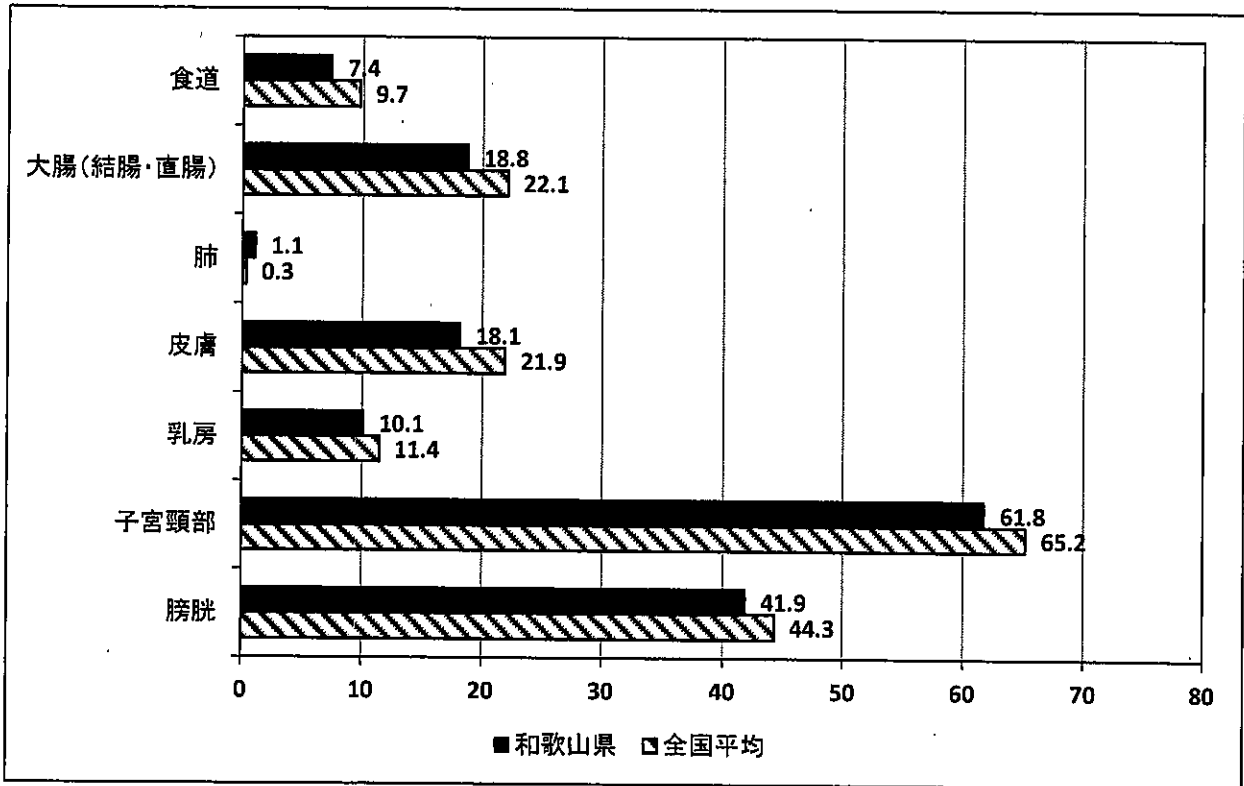


厚生労働省の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」で定められている5がん(胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん)では、「がん検診・健康診断・人間ドック」での発見が全国平均より高いのは、乳がん、子宮頸がんである。

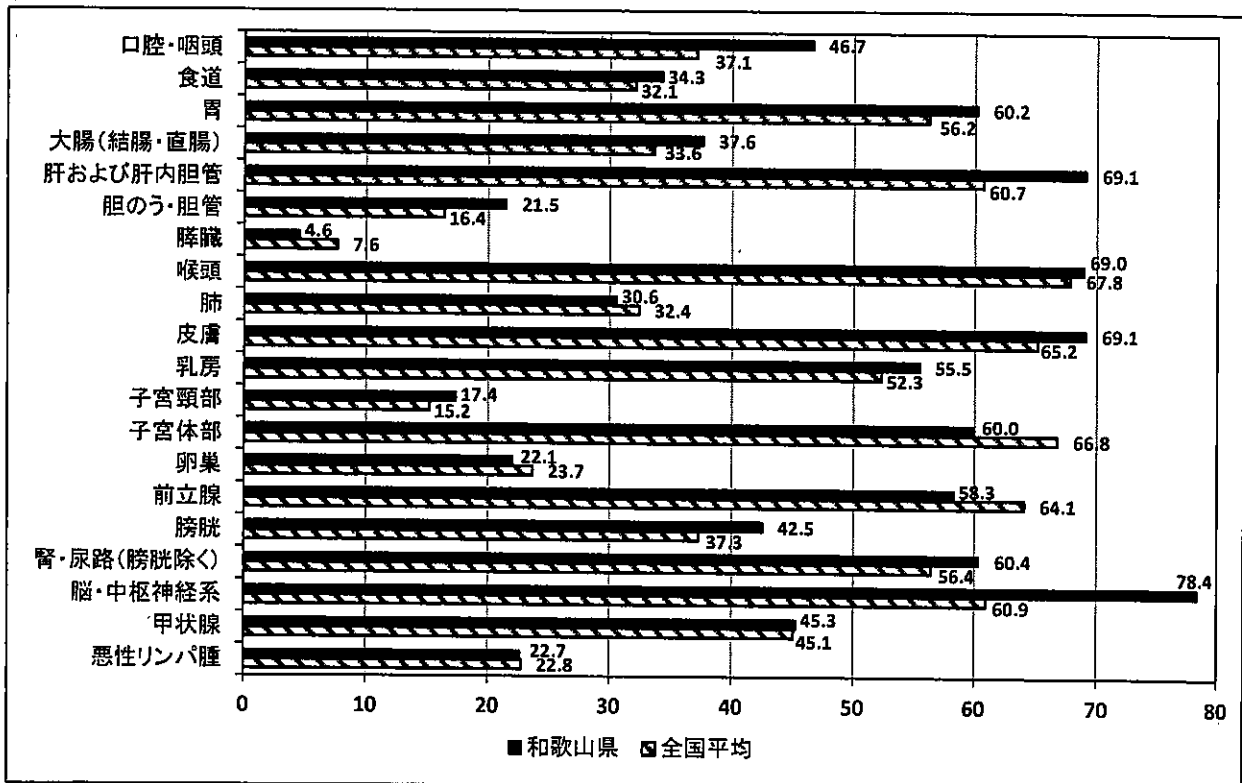
※和歌山県の数字は、標準集計表の表4-A、4-Bから作成

部位別・進展度分布 (%) 全国平均との比較

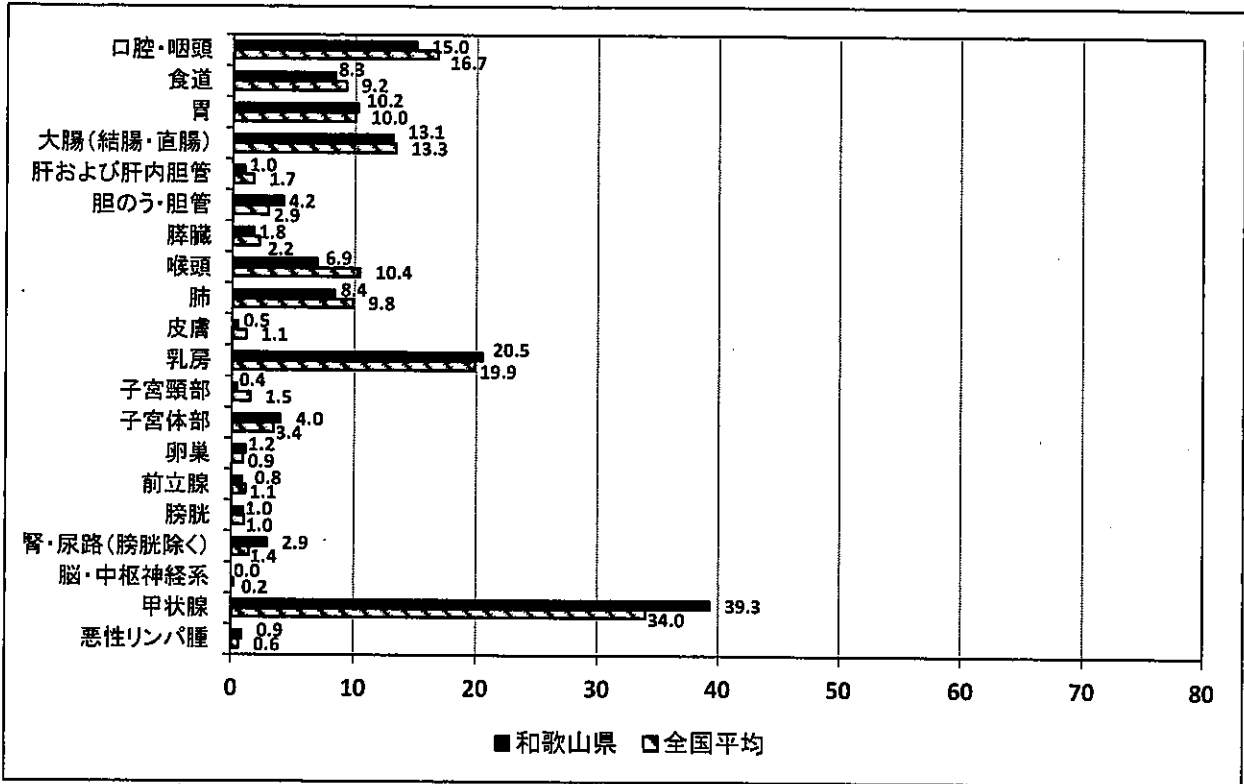
① 上皮内



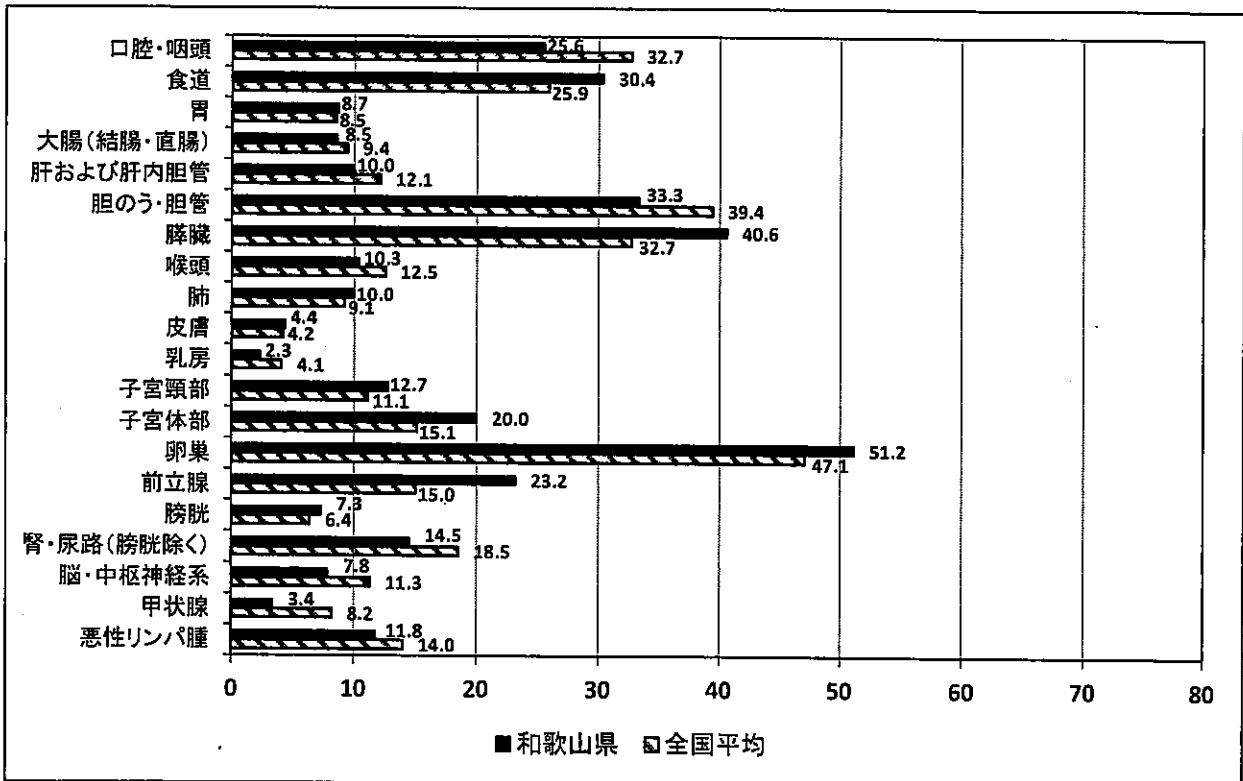
② 限局



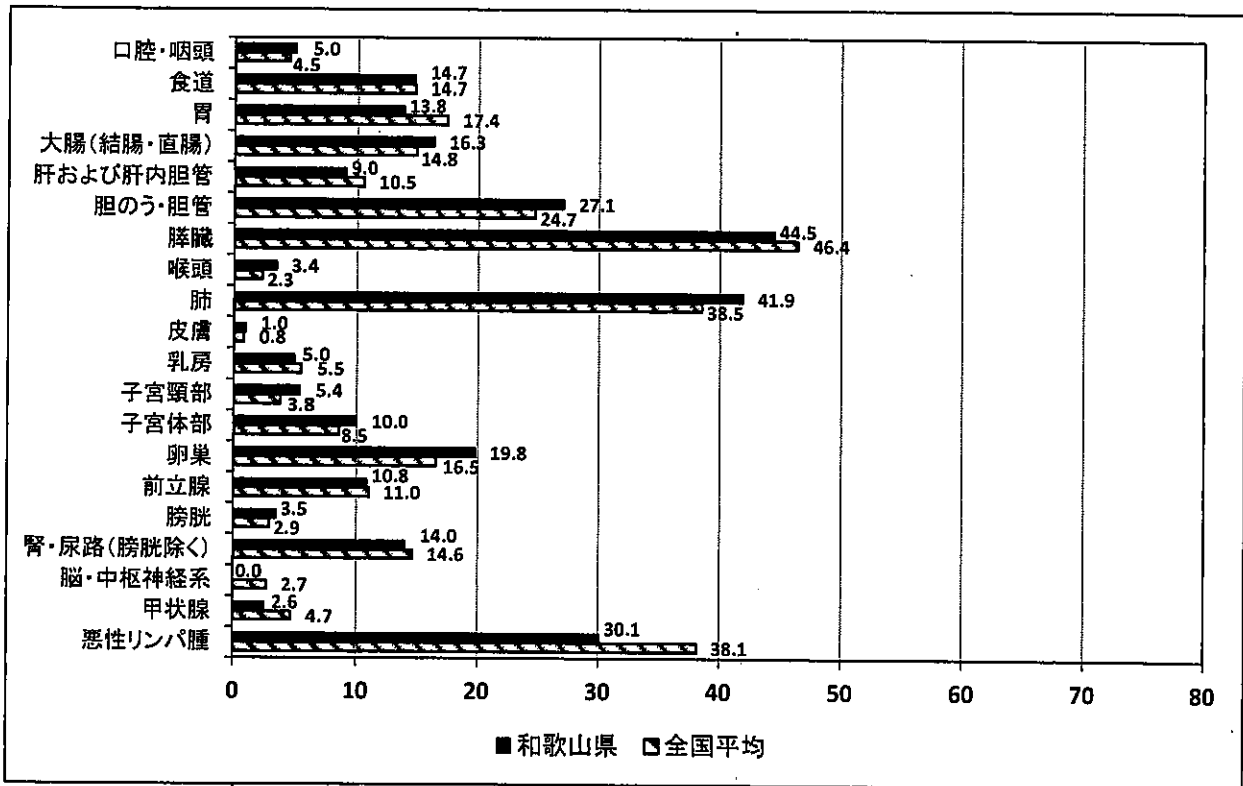
③ 所属リンパ節転移



④ 隣接臓器浸潤

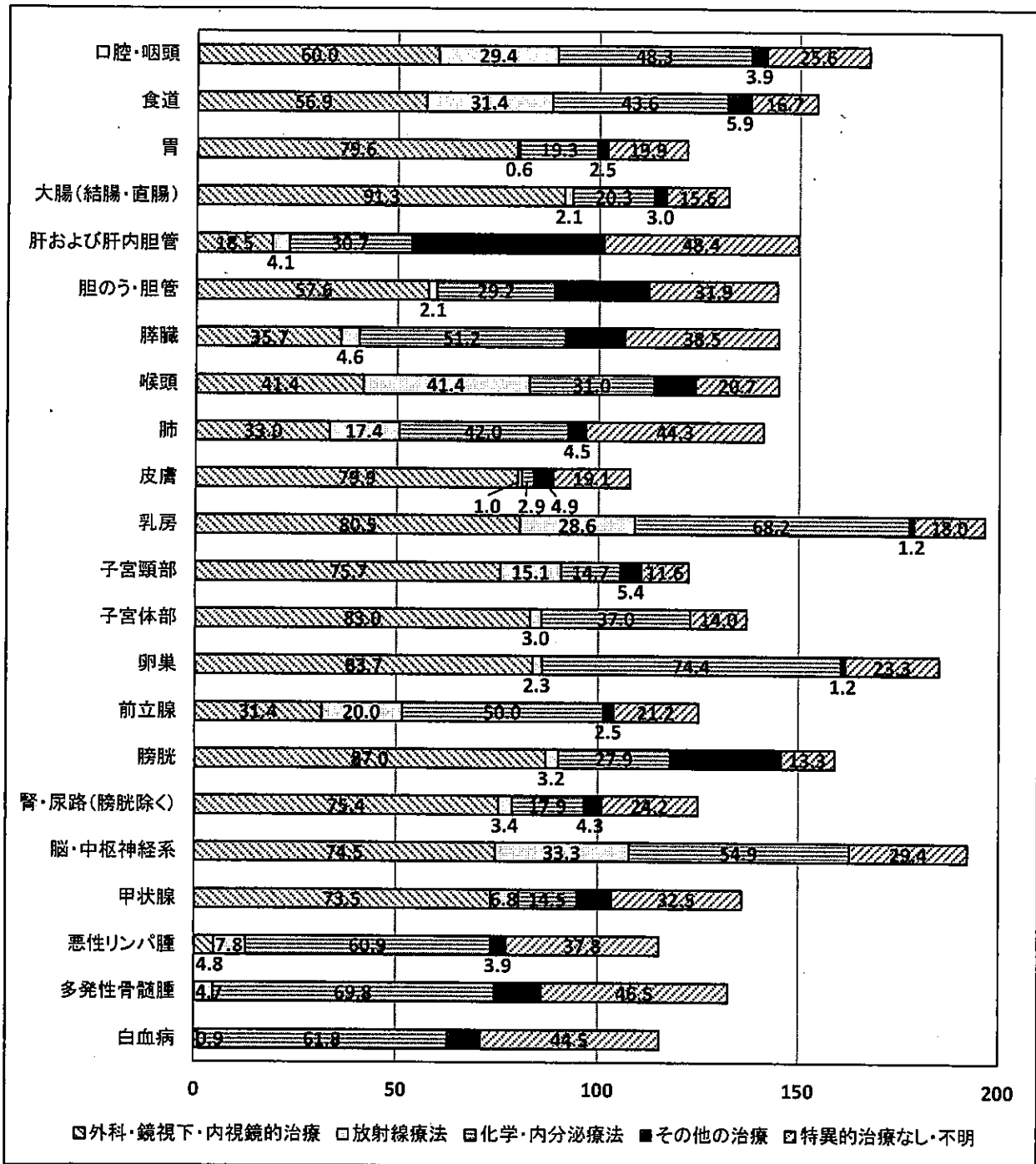


⑤ 遠隔転移



※標準集計表の表 5-1-A、5-1-B から作成

部位別・受療割合 (%)



※重複を含むため 100%にならない。

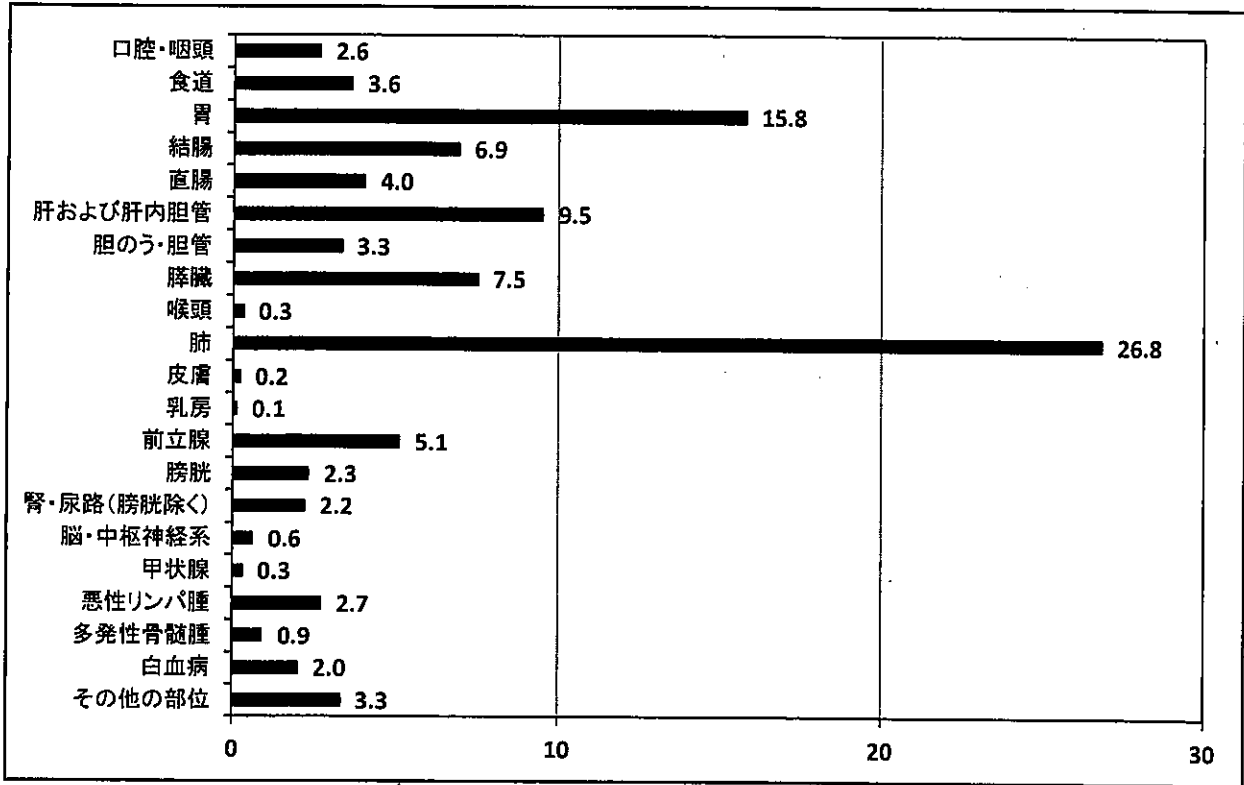
受療割合で見ると、外科・鏡視下・内視鏡的治療の割合は高く、特に大腸がん、子宮体がん、卵巣がんや膀胱がんが高くなっている。また、放射線療法は口腔・喉頭がん、食道がん、乳がんや脳・中枢神経系で高く、化学・内分泌療法は、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫及び白血病で多く実施されている。

※ 標準集計表の表 6-A、6-B から作成

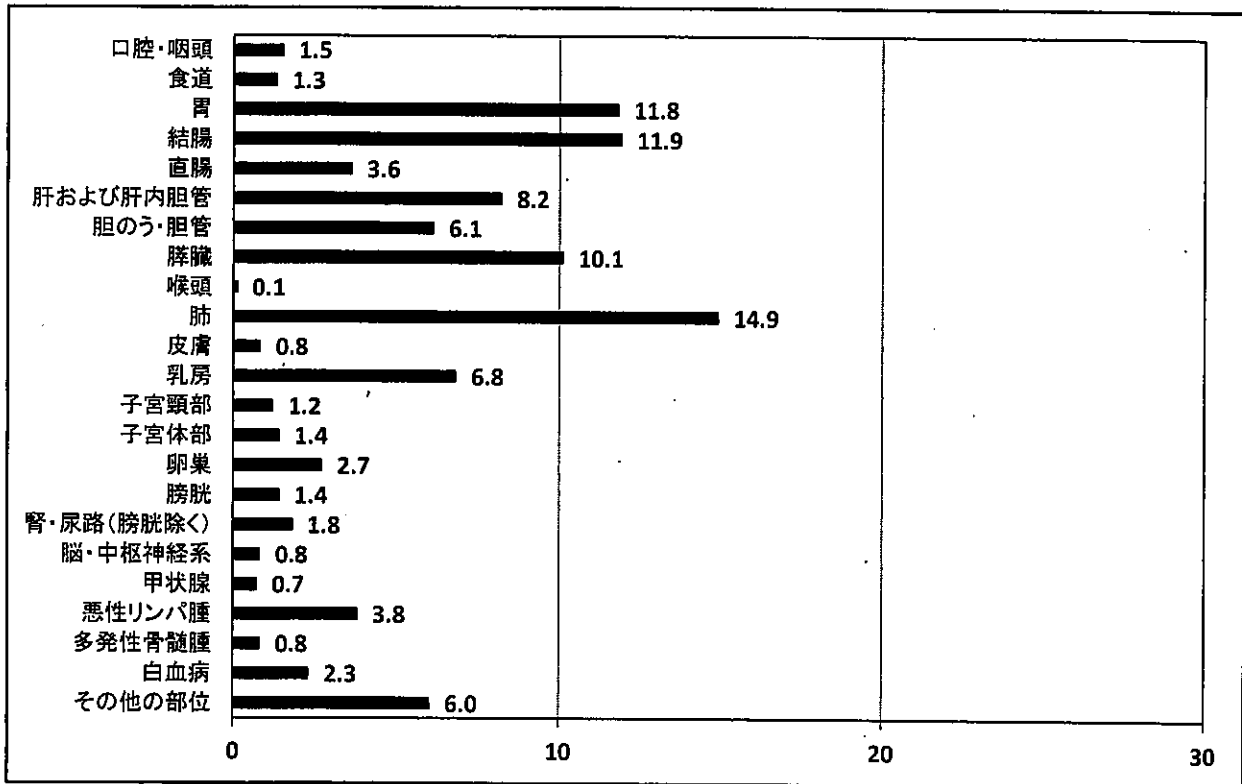
部位別・死亡割合 (%) ※標準集計表の表9から作成

男性は肺がんが特に高く、次いで胃がん、肝および肝内胆管がんが高くなっている。女性でも肺がん、結腸がん、胃がん、膵臓がんの順に高くなっている。

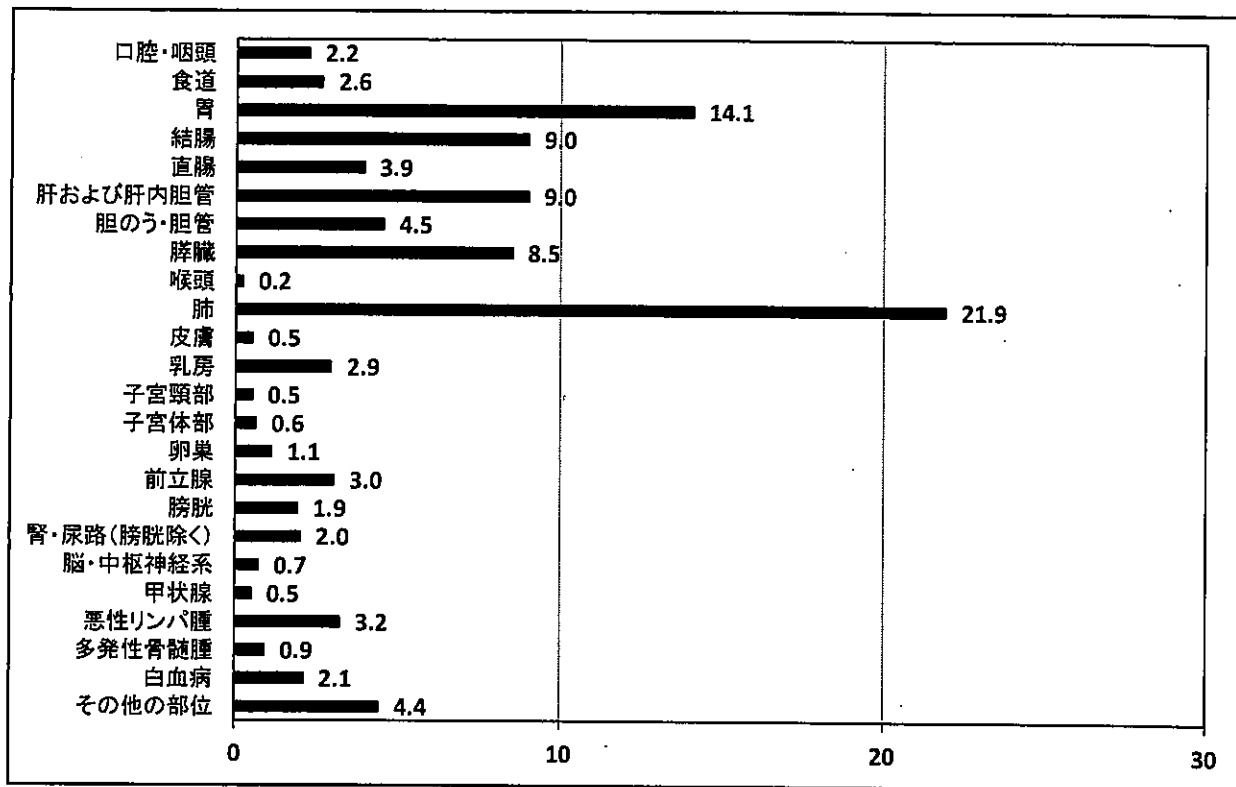
【男性】



【女性】



【男女計】

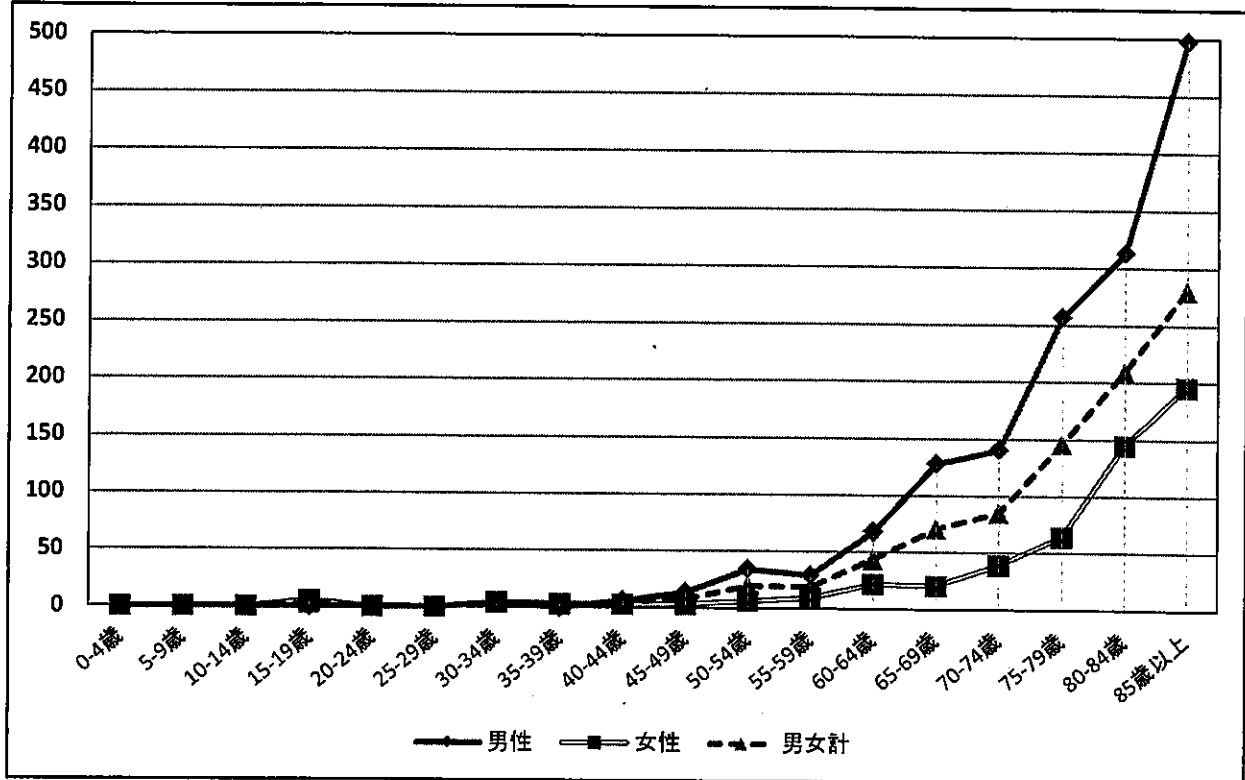


年齢階級別死亡率（人口10万対）：部位別、性別（主要部位）

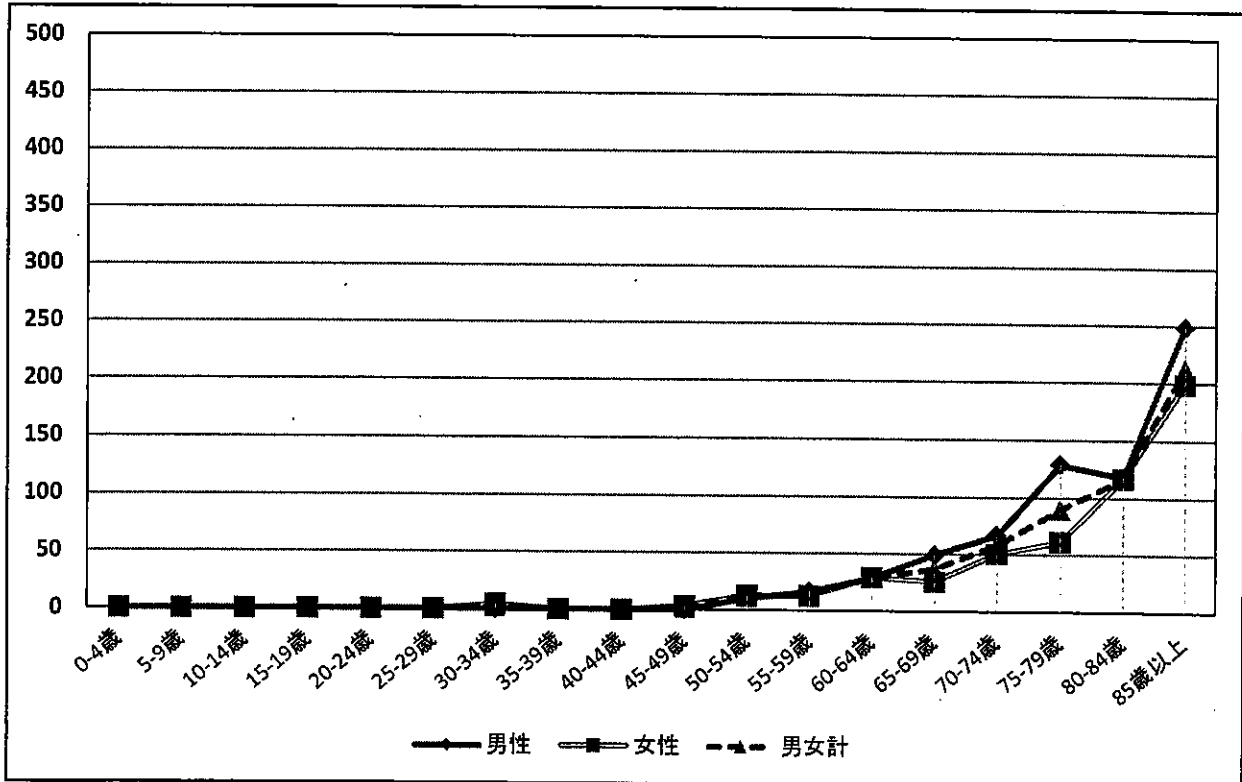
※標準集計表の表11から作成

年齢階級別の死亡率では、男女とも55歳以上で率が高くなっている。しかし、乳がんは30歳代から高くなっている。

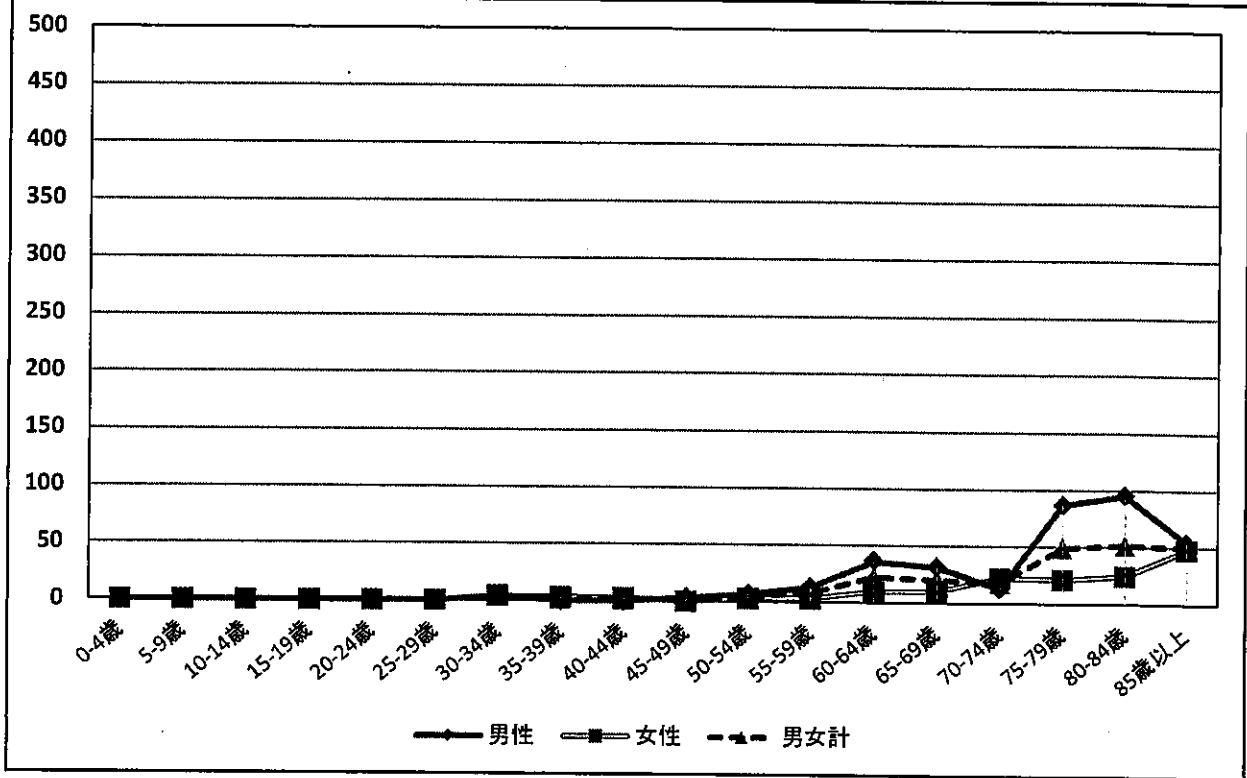
① 胃



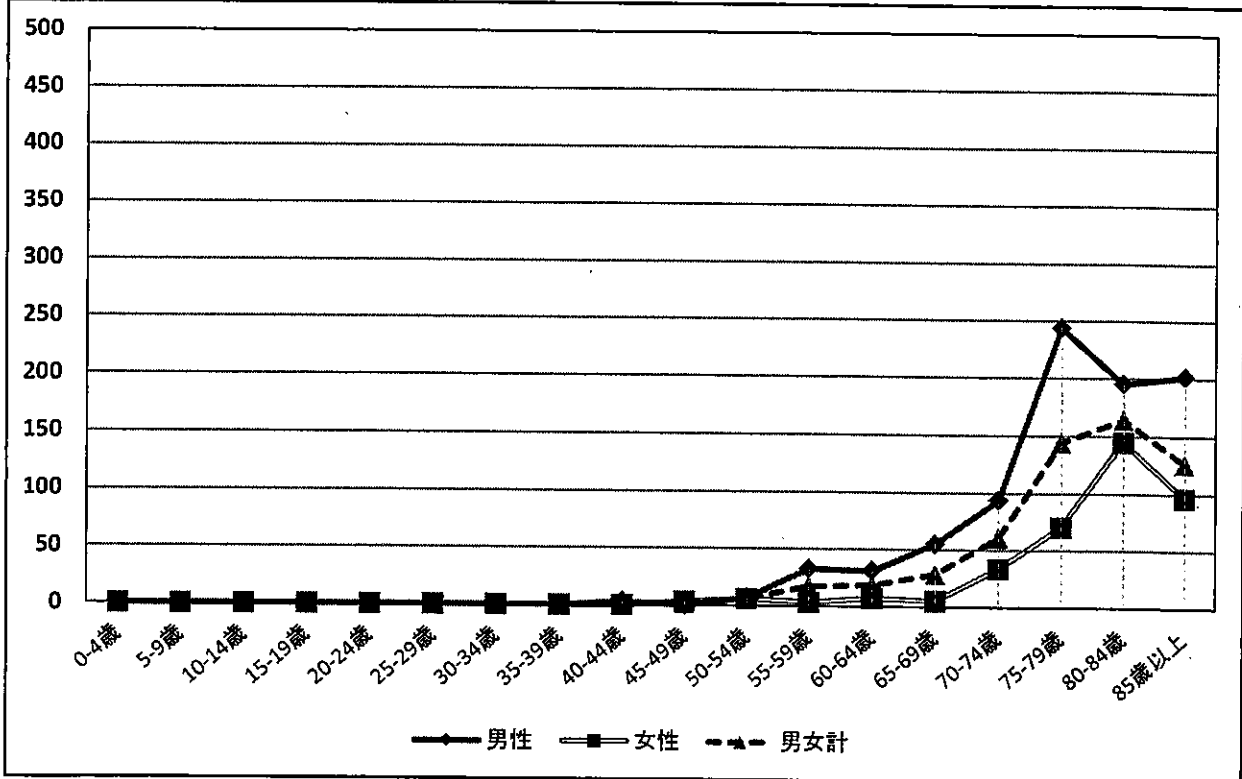
② 結腸



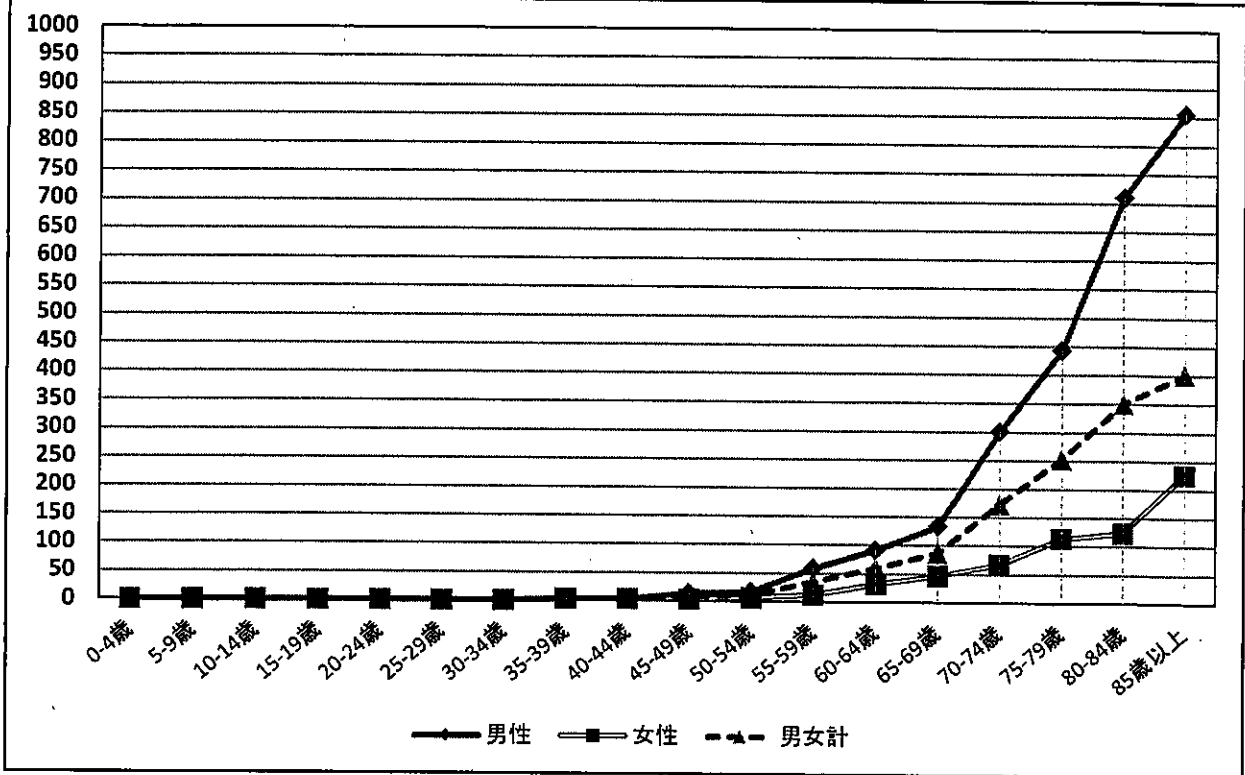
③ 直腸



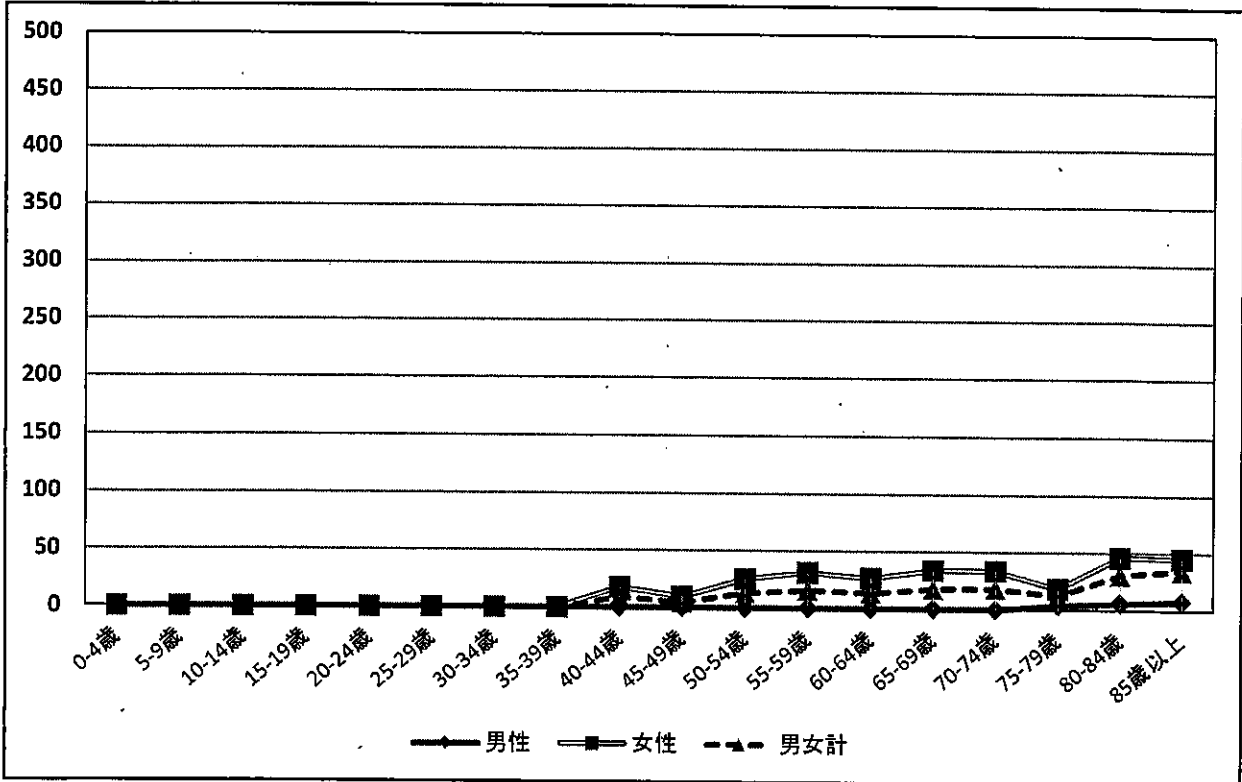
④ 肝および肝内胆管



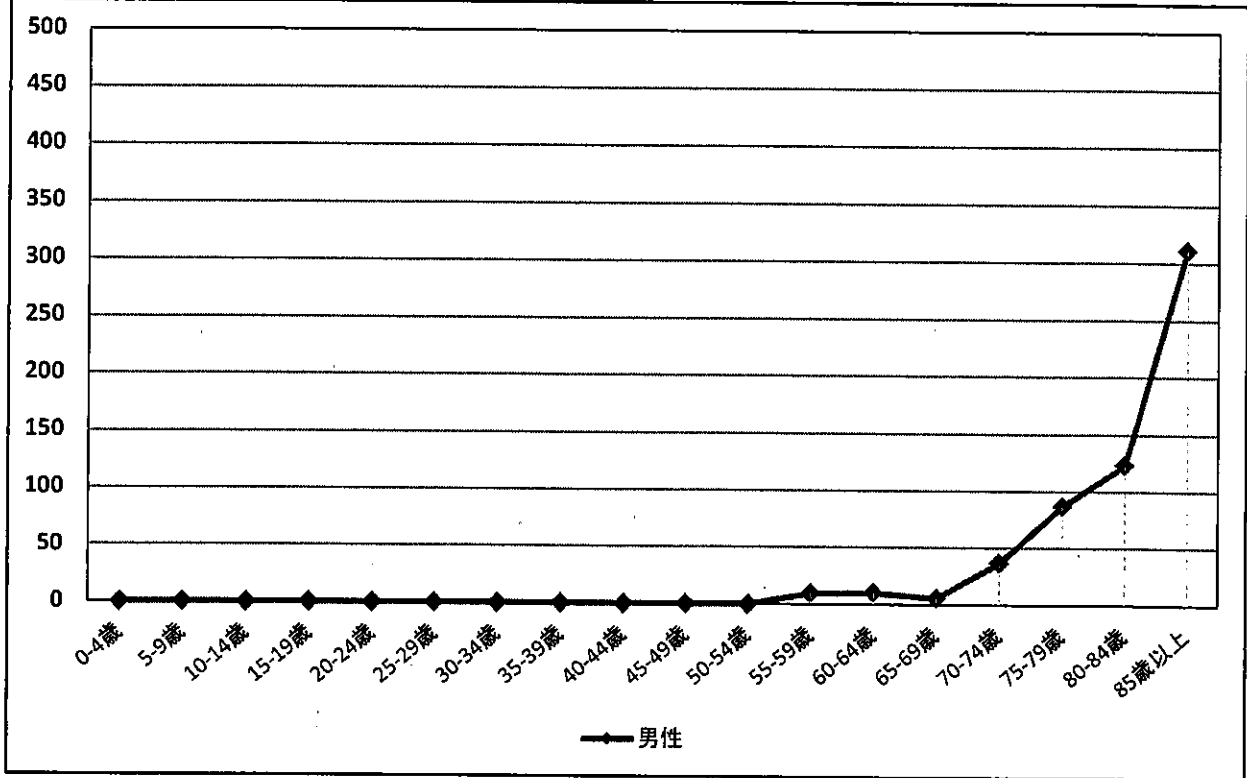
⑤ 肺



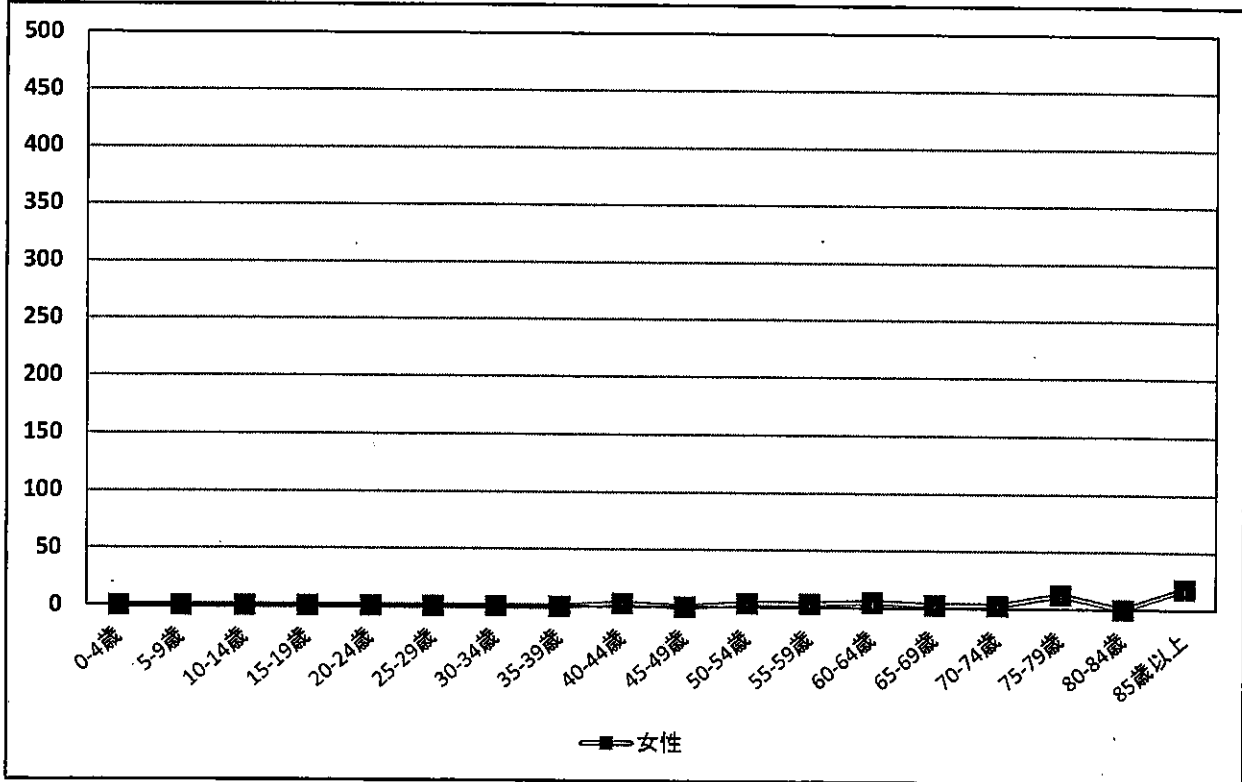
⑥ 乳房



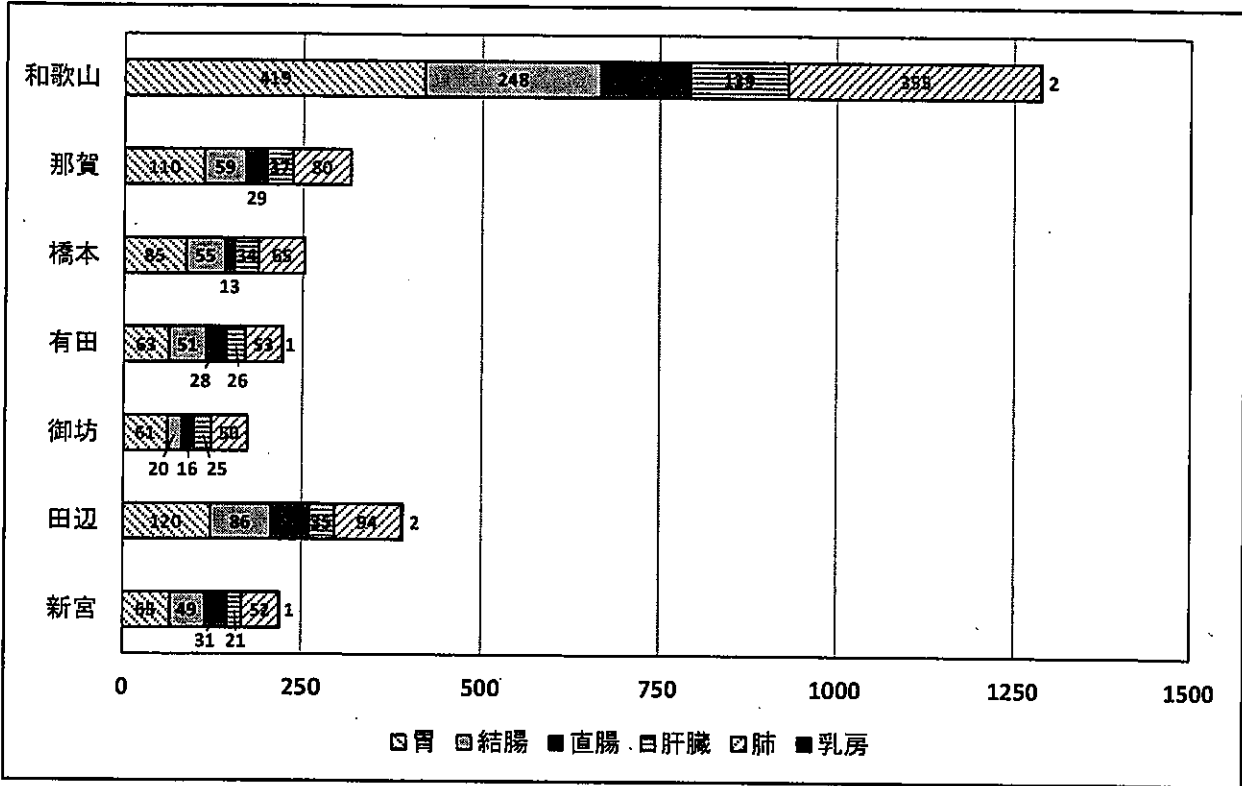
⑦ 前立腺



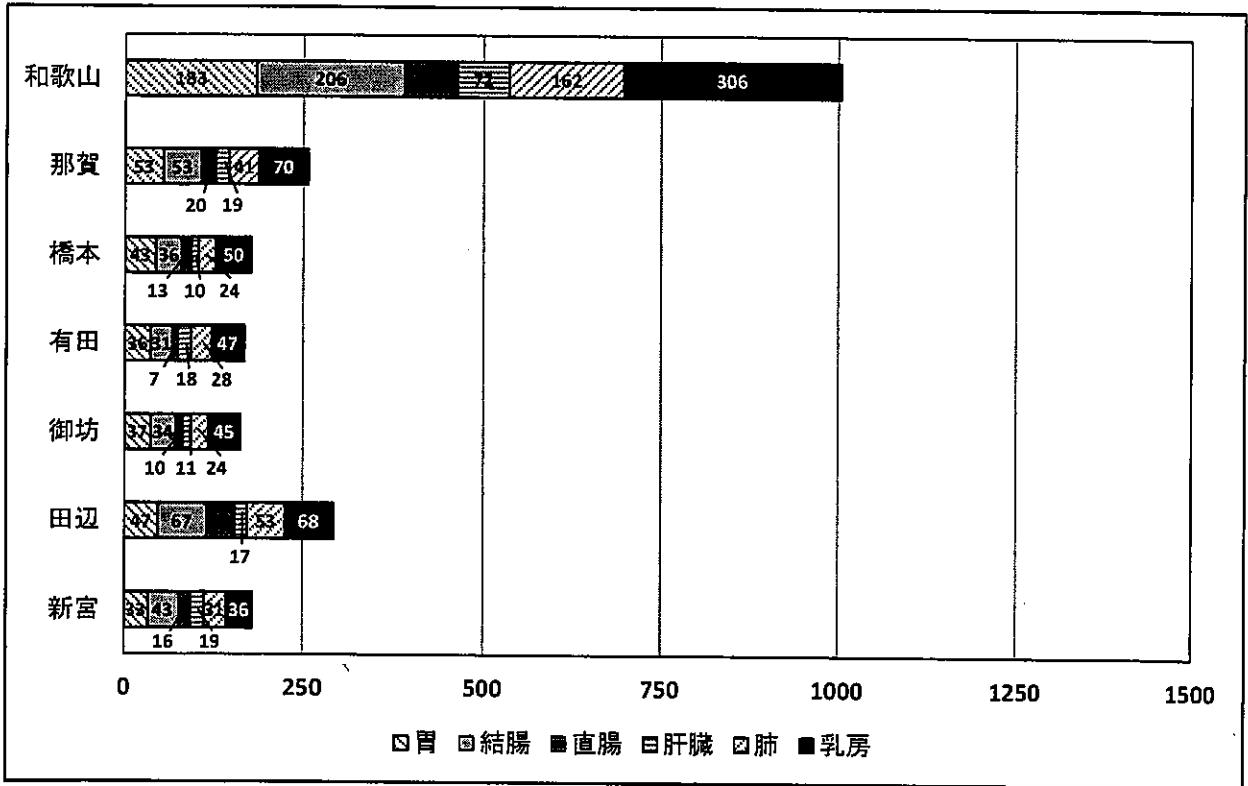
⑧ 子宮頸部



医療圏別罹患数：部位別、性別（主要部位） ※ 標準集計表の付表 4-A、4-B から作成
【男性】



【女性】



【男女計】

